平成３０年度

みえ高校生県議会
記 録 集

三重県議会広聴広報会議

はじめに

三重県議会では、広聴広報活動の一環として、高校生に県議会を体験してもらうことで県議会に対する関心を高めてもらうとともに、高校生の生の意見を直接、県議会での議論に反映していくため、平成２６年度からこれまで隔年で「みえ高校生県議会」を開催しております。

３回目の開催となる今回は、県内各地から１１校４０人の高校生に参加いただき、議場において県議会議員さながらの質問や提案を各常任委員長に行っていただきました。

高校生の皆さんの質問や提案は、時間をかけて十分調査を行ったものです。また、その内容は、学校での勉強や日々の生活の中で高校生の皆さんが気付いたことをもとに、まとめられた非常に完成度の高いものでありました。三重県議会としても、大変貴重なご意見をいただけたものと思っております。

この記録集は「みえ高校生県議会」の内容をたくさんの方々に知っていただけるよう、とりまとめたものです。「みえ高校生県議会」当日の熱気を感じていただくとともに、三重県議会により親しみを持っていただければ幸いに存じます。

最後になりますが、「みえ高校生県議会」の開催にあたり、参加いただいた高校生の皆さんはもちろんのこと、多大なご協力をいただいた各学校の先生方、並びにその他関係者の皆さんに心から御礼を申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。

平成３１年１月

三重県議会副議長
三重県議会広聴広報会議座長
前野　和美

目　次

Ⅰ　６月２３日　みえ高校生県議会　事前交流会

参加生徒一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
参加議員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
各校に対する議員からの助言・他校からの質疑　概要・・・・・・・・・5
グループ別意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅱ　８月２１日　みえ高校生県議会

プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
参加校及び質問項目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
参加生徒一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
参加議員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
本会議場座席図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
会議録
開会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
議長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
知事あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
各校の質問及び答弁
桑名北高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
津田学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
四日市南高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
暁高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
津高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
津西高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
三重高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
セントヨゼフ女子学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
久居農林高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
名張高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
紀南高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

※本文中の【パネル】は、53～64 ページに掲載しています。

環境生活部長の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
教育長（代理）の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
副議長あいさつ、閉会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

参考資料

高校生議員によるパネル資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
「みえ高校生県議会」アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

Ⅰ　６月２３日　みえ高校生県議会
事前交流会

「みえ高校生県議会」事前交流会　開催概要

今年度、新たな取組として、「みえ高校生県議会」の開催前に、事前交流会を開催し、質問内容のブラッシュアップと生徒間の交流を図りました。全体の場で質問内容の発表と意見交換の後、グループに分かれて議論を行いました。

○日時：平成３０年６月２３日（土）　１３時３０分～１５時３０分
○場所：三重県議会議事堂　全員協議会室、各常任委員会室
○開催スケジュール：
　１　開会あいさつ
　２　趣旨説明
　　（議員と参加校の生徒、また参加校の生徒同士が意見交換を行うことにより、質問内容のブラッシュアップとともに参加校の生徒同士の交流も図る。）
　３　自己紹介
　４　質問内容の概要説明、質問内容に関する助言、質疑（60 分程度）
　５　グループ別意見交換　（30 分程度）
　　（各校の質問内容について議論）

◆　参加生徒一覧　◆

１　桑名北高等学校			
山口　弘記	成實　彩那	市川　未来	中村　弥生
２　津田学園高等学校			
伊藤　璃音	佐藤　さくら子	西山　晃弘	野呂　貴太
３　暁高等学校			
田中　公士	村山　瑛大	水谷　友香	田中　碧美
４　四日市南高等学校			
川戸　将矢	森　亮	赤嶺　直弥	
５　津高等学校			
長谷川　瑞記	的場　優真	湊　哉太	

◆　各校に対する議員からの助言・他校からの質疑　概要　◆

1　桑名北高等学校「県内の学校における道徳教育について」

【議員からの助言】

〈芳野正英 議員〉　具体的な事例を基に、質問を組み立ててもらうと、すごくわかりやすい。コミュニケーション授業の中身を説明し、それを踏まえた形で質問に移っているので、非常に良い形であり、聞いている人もイメージができるような質問の組み立てである。ここは非常に良いと思う。

2　三重高等学校「三重県の教育と順位の捉え方について」

【議員からの助言】

〈野村保夫 議員〉　質問は、自分たちでメリットやデメリットの洗い出しがされている。自分たちでアンケートもとって、それを表現しながら質問もされており、良い質問の仕方であるので、あえて直す必要はないのではないか。

3　津田学園高等学校「三重県の人口減少に対する取り組みについて」

【議員からの助言】

〈山本里香 委員〉　前回、話を伺ったときから、さらに自分たちの足元のこともしっかり見ながら、人口が増えているところは、なぜ増えたかというところまで考えを広げている。アンケートの内容もとても楽しみにしている。アンケート結果と自分たちの予想とが違う場合もあると思うが、そのときは、また新しく考えて、追加をしていただきたい。上手くまとまっていると思う。

〈芳野正英 委員〉　この質問も大変よくできていると思う。アンケートをとるということは具体的な中身を取り出すことである。三重高校もアンケートをしており、三重県の取組をしっかり調べている。また、内閣府という国の官庁の情報もしっかりと調べているので、非常に、それぞれのバランスが取れており良いと思う。

るが、考えている具体的な場所があればお聞きしたい。

●回答：四日市南高等学校

例えば、観光地のまわりにある駅を中心に考えている。

○質問：津高等学校

南部地域は交通の利便性に問題があるということについて、14ページの資料を見ると、線路がどちらかというと北部と中部だけで、南部はあまり書いてないようであるが、どう思うか。

●回答：四日市南高等学校

この資料は料金に関する資料だが、他の問題点と絡めながら映写資料を使うこともできるので、検討したいと思う。

6　津高等学校「三重県における国際交流の推進」

【議員からの助言】

〈山本里香 議員〉　ＡＬＴの方に直接、インタビューをして、話を聞いたことが入ると、数字だけでなくなり、厚みが出てくるように思う。

〈野口　正 議員〉　きちんとまとめていただいている。以前、言った私の思いが大体、書いてあるので問題ない。

7　津西高等学校「過疎地域におけるＣＯ２削減について」

【議員からの助言】

〈芳野正英 議員〉　これは非常に面白い質問だと思う。地球温暖化を防ぐためにＣＯ２を減らす必要がある。日本国内でみると企業はＣＯ２の排出量を減らしてきているが、今、問題なのは、各家庭のＣＯ２排出量をどう減らしていくかというところで、自動車の利用を減らすという発想はとても的を射ていて良いと思う。

過疎地域というのは、森林が多く、排出しているＣＯ２をその市町村別でみると吸収しており、ＣＯ２の排出量は都会より少ない。そうすると、高齢者は車の運転が難しく、公共交通もなく、不便も増しているという問題意識から、この３つの提案を質問しても良いと思う。このままの論旨で立てても良いと思うが、それならば、要望したいのは、なぜＣＯ２を削減しないといけないかという問題点をもう少し深堀りをして質問をされると良いと思う。

議員が議会で質問するのは、皆さんの暮らしが昨日よりも今日、少しでも良くするために、議論をしている。そういう部分で、ＣＯ２を削減して世の中をどう良く

するのかをもう少し提案をすると質問の深堀りになると思う。

〈田中祐治 議員〉　過疎地域におけるＣＯ２削減というのは、面白いと思う。組み立てとして、「地球温暖化について様々な議論が重ねられている」というのは、例えば、温暖化によってどのようなことが発生していて、どのようなことが議論されているのかを入れるとわかりやすくなると思う。

「三重県では、自動車の利用が多い」というのは、本当に多いのかどうか、全国の中で三重県は何番目くらいに多いのか調べて、考えていただきたい。

また、事例を研究して、取組によってこう変わったから、三重県もどうかという考え方があれば、もう少し内容の深まった質問になると思う。

〈芳野正英 議員〉　提案の「バスと荷物を混載する」というのは、とても良い発想をしていると思う。貨客混載という制度で、国土交通省のホームページに事例が出ているので、参考にしてもらうと良いと思う。

【他校からの質疑】

○質問：津高等学校

一つ目の案に「道の駅の商品カタログ」とあるが、自分の住んでいる地域の近くには、道の駅があまりなく、道の駅から届けてもらうことが困難になると思う。三重県に道の駅がどれくらいあり、どこに多くて、どこに少ないか把握しているか。

●回答：津西高等学校

三重県の道の駅の数は 18 件で、その内 10 件が南勢地区に位置している。

○質問：三重高等学校

公共発電自転車は、現在、開発されているのか、また、実際に利用されている都道府県や市町村があれば、お答えいただきたい。

●回答：津西高等学校

県では今のところないが、発電自転車をつくっている企業や公共のシェアサイクルをしている自治体はあるので、それを合わせたらどうかということで、この提案をさせていただいた。

●回答：芳野正英 議員

シェアサイクルは、富山市や金沢市で観光客向けに行っている。他に四日市市や松阪市が観光客や駅前の利用者のためにシェアサイクル、レンタサイクルを行っている。

●回答：中瀬古初美 議員

松阪では、レンタサイクルがあり、非常に新しい発想だと思う。駅前で借りて、いろんな場所を回って途中で返却もできる。

○質問：桑名北高等学校
道の駅の商品を「近くの自治体の共同スペースまで輸送」とあるが、自治体の共同スペースとは何か。
●回答：津西高等学校
公民館等を考えている。そこに集まることで、高齢者の方をはじめ、コミュニケーションの場としても発展すれば良いと思っている。

8　名張高等学校「高齢者がいきいきと生活していくための交通整備について」

【議員からの助言】

〈木津直樹 議員〉　訪問時よりさらに良くなっていると思う。特に、数字で示している点、地域の声を紹介している点がとてもわかりやすいと思う。
　都会で暮らす高齢者も、条件不利地で暮らす高齢者も、お互いが公平平等にいきいきと暮らしていくための人権もあるという内容があると良いと思う。

〈芳野正英 議員〉　過疎地域の公共交通をどうするかという課題は、津西高校と名張高校は同じ問題の視点で、アプローチの視点が違っており、非常に面白いと思う。名張高校は、高齢者のための移動手段をどう確保するかという福祉の視点、津西高校は、ＣＯ２削減のために、自動車を減らしていくという発想をしている。ぜひ津西高校は、ＣＯ２削減の部分をもう少し深堀りして、過疎地域に起こるＣＯ２削減という部分の視点からこの質問をされると議論が深くなっていくので良いと思う。名張高校は非常に上手くまとめているので、このままで良いと思うが、福祉の視点ならば、ボランティアによる移動の支援やオンデマンド交通というのもある。こういうことを調べて、三重県ではできないかという視点も加えてみると良いと思う。

〈中瀬古初美 議員〉　オンデマンド交通は、三重県でも玉城町が実際、行っており参考になると思うので調べていただくと、より良いものになるのではないかと思う。

【質問内容の概要説明、質問内容に関する助言、質疑の様子】（全員協議会室）

◆　グループ別意見交換　◆

グループ別意見交換では、各校の質問分野ごとに分かれ、質問内容について、さらに議論を深めました。

① 環境生活・農林水産分野〔201 委員会室〕

学校名	生徒名	学年
津西高等学校	野口　陽平	2
	小瀬古　圭慶	2
	岩崎　拓	2
名張高等学校	齋竹　渚	2
	杉田　香乃	2
	池田　彩香	2
	川向　彩和	2

三重県議会議員	中瀬古　初美
	木津　直樹

② 教育・警察分野〔202 委員会室〕

学校名	生徒名	学年
桑名北高等学校	山口　弘記	3
	成實　彩那	3
	市川　未来	3
	中村　弥生	3
三重高等学校	伊藤　綾香	2
	小林　大輝	2
	伊達　愛菜	2
	村上　心	2

三重県議会議員	芳野　正英
	野村　保夫

③ 総務・地域連携分野、防災・県土整備・企業分野〔301 委員会室〕

学校名	生徒名	学年
津田学園高等学校	伊藤　璃音	2
	佐藤　さくら子	2
	西山　晃弘	2
	野呂　貫太	2
暁高等学校	田中　公士	2
	村山　瑛大	2
	水谷　友香	2
	田中　碧美	2

三重県議会議員	前野　和美
	山本　里香

④ 戦略企画・雇用経済分野〔302 委員会室〕

学校名	生徒名	学年
四日市南高等学校	川戸　将矢	2
	森　亮	2
	赤嶺　直弥	2
津高等学校	長谷川　瑞記	2
	的場　優真	2
	湊　哉太	2

三重県議会議員	野口　正
	倉本　崇弘

Ⅱ　８月２１日　みえ高校生県議会

みえ高校生県議会
プログラム

○日　時　：　平成３０年８月２１日（火）
　　午前１１時４０分～午後４時
○場　所　：　三重県議会議事堂　議場

【スケジュール】

議事内容
〈11:40～〉 ○ 開会 ○ あいさつ　三重県議会議長　前田 剛志 　　三重県知事　　鈴木 英敬 ○ 高校生議員の紹介 ○ 委員長、教育長（代理）、環境生活部長の紹介 〈12:00～13:00　昼食休憩〉 ○ 議長役高校生の紹介 ○ 各校の質問及び答弁 （※途中休憩あり） ○ 井戸畑 環境生活部長の感想 ○ 教育長（代理）（森脇 教育委員）の感想 ○ あいさつ　三重県議会副議長　前野 和美 ○ 閉会 〈～16:00〉

参加校及び質問項目一覧

学校名	質問項目
桑名北高等学校	県内の学校における道徳教育について
津田学園高等学校	三重県南部の人口減少に対する取り組みについて
四日市南高等学校	観光資源の持続的な経済活用について
暁高等学校	若年層の防災意識の向上にむけた新たな取り組みについて
津高等学校	三重県における国際交流の推進
津西高等学校	自動車の利用と CO2 削減について
三重高等学校	三重県の教育と順位の捉え方について
セントヨゼフ女子学園高等学校	外国人の受け入れについて
久居農林高等学校	三重県の「木育」施設について
名張高等学校	高齢者がいきいきと生活していくために
紀南高等学校	学校における中高校生の共助の意識向上や活動の普及について

参加生徒一覧

【桑名北高等学校】

議席番号	名　前	学年
1	山口　弘記	3
2	成實　彩那	3
3	市川　未来	3
4	中村　弥生	3

【津田学園高等学校】

議席番号	名　前	学年
5	伊藤　璃音	2
6	佐藤　さくら子	2
7	西山　晃弘	2
8	野呂　貫太	2

【四日市南高等学校】

議席番号	名　前	学年
9	川戸　将矢	2
10	森　亮	2
11	赤嶺　直弥	2

【暁高等学校】

議席番号	名　前	学年
12	田中　公士	2
13	村山　瑛大	2
14	水谷　友香	2
15	田中　碧美	2

【津高等学校】

議席番号	名　前	学年
16	藪　和史	2
17	長谷川　瑞記	2
18	的場　優真	2
19	湊　哉太	2

【津西高等学校】

議席番号	名　前	学年
20	野口　陽平	2
21	小瀬古　圭慶	2
22	岩﨑　拓	2

【三重高等学校】

議席番号	名　前	学年
23	伊藤　綾香	2
24	小林　大輝	2
25	伊達　愛菜	2
26	村上　心	2

【セントヨゼフ女子学園高等学校】

議席番号	名　前	学年
27	樋口　実波	1
28	山中　美穂	1
29	瀬分　葵	1

【久居農林高等学校】

議席番号	名　前	学年
30	信藤　聡仁	2
31	前田　一樹	2
32	魚見　新	2

【名張高等学校】

議席番号	名　前	学年
33	齋竹　渚	2
34	杉田　香乃	2
35	池田　彩香	2
36	川向　彩和	2

【紀南高等学校】

議席番号	名　前	学年
37	西垣内　悠太	2
38	上地　真也	1
39	中南　開晴	1
40	大谷　怜緒那	3

参加議員一覧

【議　長】　前田　剛志

【副議長】　前野　和美（三重県議会広聴広報会議座長）

【委員長】

委員会名	委員長名
総務地域連携常任委員会	服部　富男
戦略企画雇用経済常任委員会	芳野　正英
環境生活農林水産常任委員会	廣　耕太郎
医療保健子ども福祉病院常任委員会	野口　　正
防災県土整備企業常任委員会	小島　智子
教育警察常任委員会	木津　直樹

【広聴広報会議委員】

みえ高校生県議会の企画及び開催に向けた準備等を行うとともに、委員が参加校を訪問し、参加高校生と打ち合わせを行いました。

委員名	打ち合わせ担当校
芳野　正英	桑名北高等学校
中瀬古　初美	セントヨゼフ女子学園高等学校
廣　耕太郎	紀南高等学校
後藤　健一	久居農林高等学校
木津　直樹	名張高等学校
田中　祐治	津西高等学校
野口　　正	津高等学校
山本　里香	津田学園高等学校
倉本　崇弘	暁高等学校、四日市南高等学校
野村　保夫	三重高等学校

本会議場　座席図

	教育警察常任委員長 木津直樹	防災県土整備企業常任委員長 小島智子	医療保健子ども福祉病院常任委員長 野口正	環境生活農林水産常任委員長 廣耕太郎	戦略企画雇用経済常任委員長 芳野正英	総務地域連携常任委員長 服部富男

	高校生議長	副議長 前野和美

事務局席						
環境生活部長 井戸畑真之	教育長(代理)教育委員 森脇健夫	議会事務局長 湯浅真子	広聴広報会議委員 野村保夫	広聴広報会議委員 田中祐治	広聴広報会議委員 後藤健一	
議長 前田剛志	知事 鈴木英敬		広聴広報会議委員 中瀬古初美	広聴広報会議委員 山本里香	広聴広報会議委員 倉本崇弘	

演壇(答弁席)

	演壇(質問席)	

	8	7	6	5
	津田学園高等学校 野呂貫太	津田学園高等学校 西山晃弘	津田学園高等学校 佐藤さくら子	津田学園高等学校 伊藤璃音
	19	18	17	16
	津高等学校 湊哉太	津高等学校 的場優真	津高等学校 長谷川瑞記	津高等学校 藪和史
		29	28	27
		セントヨゼフ女子学園高等学校 瀬分葵	セントヨゼフ女子学園高等学校 山中美穂	セントヨゼフ女子学園高等学校 樋口実波
	40	39	38	37
	紀南高等学校 大谷怜緒那	紀南高等学校 中南開晴	紀南高等学校 上地真也	紀南高等学校 西垣内悠太

(待機席 2席)　　(待機席 2席)

15	14		13	12
暁高等学校 田中碧美	暁高等学校 水谷友香		暁高等学校 村山瑛大	暁高等学校 田中公士
26	25		24	23
三重高等学校 村上心	三重高等学校 伊達愛菜		三重高等学校 小林大輝	三重高等学校 伊藤綾香
36	35		34	33
名張高等学校 川向彩和	名張高等学校 池田彩香		名張高等学校 杉田香乃	名張高等学校 齋竹渚

4	3	2	1	
桑名北高等学校 中村弥生	桑名北高等学校 市川未来	桑名北高等学校 成實彩那	桑名北高等学校 山口弘記	
11	10	9		
四日市南高等学校 赤嶺直弥	四日市南高等学校 森亮	四日市南高等学校 川戸将矢		
22	21	20		
津西高等学校 岩崎拓	津西高等学校 小瀬古圭慶	津西高等学校 野口陽平		
32	31	30		
久居農林高等学校 魚見新	久居農林高等学校 前田一樹	久居農林高等学校 信藤聡仁		

平成30年

みえ高校生県議会
会議録

平成30年8月21日（火曜日）
〔午前11時40分開会〕

開　　会

○三重県議会副議長（前野和美）

ただいまから「みえ高校生県議会」を開催いたします。私は三重県議会副議長で広聴広報会議の座長を務めております前野和美でございます。どうぞよろしくお願いします。

それではまず初めに、前田剛志三重県議会議長よりご挨拶を申し上げます。

議長あいさつ

○三重県議会議長（前田剛志）

どうも皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました三重県議会で議長を務めております前田剛志と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日は「みえ高校生県議会」にご参加をいただきまして、まずもって感謝を申し上げるところでございます。本当にどうもありがとうございます。本会議も今回で3回目を迎えさせていただきました。高校生の皆様方に県議会議員としての体験をしていただくことによりまして、議会にこれからも関心を持っていただければということとともに、日頃、高校生の皆様方がいろいろ感じているご意見やご質問を、この機会の中で高校生の皆様方に直接聞かせていただくことによりまして、議会での議論に反映をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。今回は、11校40名の方にご参加をいただいております。事前にいただいた内容等を拝見させていただきますと、県政の重要課題ばかりでございまして、これまでも県議会で議論を重ねてきた項目ばかりでございます。高校生の皆様方の生の声を聞かせていただくことを楽しみにしておりますし、どうぞ肩の力を抜いていただいて遠慮なくご質問をいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

最後になりますが、先生の皆様方、傍聴席にお見えですかね。引率をいただいた先生方、あるいは関係者の皆様方に大変お忙しいところ、感謝を申し上げますとともに、本会議が成功裏に終えますことを心から祈念を申し上げまして主催者を代表しての挨拶と代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○三重県議会副議長（前野和美）

続きまして、鈴木英敬三重県知事よりご挨拶をいただきます。

知事あいさつ

○知事（鈴木英敬）

皆さんこんにちは。

ただいまご紹介いただきました、三重県知事の鈴木英敬です。今日は高校生の皆さん、高校生県議会のためにこの県議会に来ていただきまして心から感謝を申し上げたいと思います。

私は今、前田議長の横から上がってきましたけれども、普段は服部先生が座ってるところに座っています。それはさておきまして、今日はですね。皆さんが仲間と一緒にいろんな議論をし、準備をしてきた、その質問をぶつけてくれると思います。どうか日頃の思いを、そして仲間と準備をしてきた思いをですね、思いっきりぶつけていただいて、少々失敗しても構いません。自分の思う通りに、少々つまづいたりしても構いませんから、元気よく皆さんの思いをぶつけてください。そして今日は、議会の先生たちが受け止めていただきますけれども、私たち執行部の方でも皆さんがご質問いただいたことは把握をしておりますので、今後の県政に可能な限り反映をしていきたいと思います。

まさに今、三重県では高校生たちが大活躍してくれています。みんなの仲間も大活躍してくれましたインターハイが昨日まで、三重県で開催されていました。総合開会式では646人の高校生たちがいろんな演技をしてくれましたし、大会の補助員として約７千人の高校生たちが手伝ってくれました。それ以外にも県内67校の高校生たちが高校生実行委員会ということで、様々な取組をしてくれました。皆さんの中にもその中に入ってくれたメンバーもいるかと思いますけれども、是非ですね、そのときの思い、また仲間が達成したこと、そういうことを自信にこれからの皆さんの人生の歩みにつなげてほしいと思いますし、協力いただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

また先般の高校野球では、白山高校のメンバーが本当にこれまで努力をして這い上がって、甲子園初出場を実現しました。このように少し辛いときがあったとしても、諦めずに前に向かって頑張っていくということは大変重要ですし、自分を信じて、仲間を信じて頑張るということは大事ですから、是非皆さんもそういう思いでこれから生活をしていってほしいと思います。ちなみに、今日の決勝戦では甲子園球場のオーロラビジョンに、三重高校のダンス部のメンバーのダンスが披露される予定になってます。今回の高校野球のダンスの中で１位になったということで、披露されますので、またみんなの仲間がそういうところでも頑張っているということであります。

最後になりますけども、皆さん高校生で、それぞれ３年生の人もいれば、２年生の人もいれば、１年生の人もいるのかもしれませんけれども、日本では18歳から選挙権が認められています。政治や行政というものが皆さんのもう目の前にきているということでありますので、今日の高校生県議会のことを単に今日のイベントに終わらせるのではなく、皆さんの生活に密着する、皆さんの人生に関係する政治というものがこれからの皆さんの身近なところにきていますから、その思いで関心を持って取り組むきっかけにしてもらえれば、と思っているところです。

最後に先生方にも感謝を申し上げ私の挨拶とします。今日はご苦労様です。

参加者の紹介

○三重県議会副議長（前野和美）

ありがとうございました。

次に、本日参加いただきました高校生議員の皆さん、各常任委員会の委員長、環境生活部長および教育長代理の教育委員をご紹介させていただきます。議会事務局長から順番にご紹介しますので、名前が呼ばれましたらご起立願います。

〔事務局長から一人ずつ紹介〕

○三重県議会副議長（前野和美）

紹介は省略をいたしますが、主催者であります広聴広報会議委員も本日出席をしております。なお、鈴木知事におかれましては公務により、ここまでで退席をされます。ありがとうございました。

暫時休憩をいたします。

〔休憩〕

各校の質問及び答弁

○三重県議会副議長（前野和美）

休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、ただいまから「みえ高校生県議会」の議長は暁高等学校、水谷友香議員。津田学園高等学校、伊藤璃音議員。暁高等学校、田中碧美議員の順に務めていただきますのでよろしくお願いします。それでは水谷議長、議長席にお着き願います。

○議長（水谷友香）

暁高等学校の水谷友香です。よろしくお願いします。（拍手）

ただいまから「みえ高校生県議会」を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

県政に対する質問を行います。

通告がありますので、順次、発言を許します。

桑名北高等学校

○議長（水谷友香）

桑名北高等学校、１番、山口弘記議員、２番、成實彩那議員、３番、市川未来議員、４番、中村弥生議員。

○桑名北高等学校（山口弘記、成實彩那、市川未来、中村弥生）

桑名北高等学校です。よろしくお願いします。

私たちは県内の学校における道徳教育について質問させていただきます。今、私たち高校生を取り巻く環境は、いじめやＳＮＳの問題等様々な課題があります。

そのような課題を解決していくためには、道徳教育で身につける力は大変重要になっていくと思います。しかし、中学校までは道徳の時間がありますが、高校にはありません。本校では、道徳について学ぶ授業の一つとして「コミュニケーション授業」というものがあります。この授業では２年生での選択希望者を対象に、１年を通して保育所の園児との交流を実施しています。

【パネルＡ－１】このコミュニケーション授業は、自己肯定感、人間関係能力、感情をコントロールする力を養うという目的で12年前に始まりました。この授業の特徴としては大きく二つあります。一つ目は桑名市との共同事業として実施されていること、二つ目は１年を通して園児とパートナーを組み一対一の継続交流を行なっていることです。

私は昨年この授業を受講していました。【パネルＡ－２】保育所での交流では、パートナーに泣かれてしまうことが何度かありました。なかなか手をつないでく

れなかったり、片付けをしてくれなかったり困る場面も何度もありました。見本を見せたり、時には待ったり繰り返し声をかけることで、だんだんできることが増えました。

この結果、パートナーがおんぶや抱っこと甘えてきたり、私たちの膝の上に特等席のように座りに来てくれたりすると、自分のことを認めてくれたと実感でき、とても嬉しくなりました。また、１年を通した交流の最後にはお楽しみ会を開きました。**【パネルＡ－３】**これは近くの公民館で会場の準備から、園児に遊んでもらう遊具の作成、当日の進行までを全て生徒の手で行います。全ての年齢の子どもたちに楽しんでもらえる企画を自分たちで考え、計画を立て、役割分担をして前日まで制作をしました。当日は子どもたちがわくわくしながら楽しんでくれた様子を見て、私たちもとても嬉しくなり満足感でいっぱいでした。

こういった体験をもとに私たちは毎回振り返りを行いました。その日の反省点をもとに、次の課題を確認します。また、仲間の関わり方を参考にしたり、クラスで振り返りを共有したりすることによって新しい気づきが得られます。この結果、他者の気持ちを考える力や、人とのコミュニケーションをより円滑に進められる力が身につきました。また、将来、親になったときにも生かすことができる貴重な体験ができました。こうした授業は、高校での道徳教育につながると思います。

そこで質問です。県内では、このように高校での道徳教育につながる取組はどのようなものがあるのでしょうか。小中学校では、教科書を使った道徳教育の授業がありますが、高校では教科としての道徳教育はありません。県として、高校生の道徳教育の取組に対して、どのようにご支援、ご指導をいただけるのか、ご回答いただければと思います。以上です。

○教育警察常任委員長（木津直樹）

教育警察常任委員長の木津でございます。桑名北高等学校の皆様におかれましては、先ほどご紹介をいただきました「コミュニケーション授業」における自らの貴重な実体験をもとに「道徳教育」について興味を持たれ、ご質問をいただきましてありがとうございました。

さて、県内の高等学校における「道徳教育」についてですが、議員ご指摘の通り、現在、小中学校では「道徳」または特別の教科である道徳を要として「道徳教育」が行われておりますが、高等学校については学習指導要領で「高等学校における道徳教育は、人間としての在り方、生き方に関する教育を学校の教育活動を全体を通じて行うこと」とされています。

本県の県立高等学校では、各学校が公民科やホームルーム活動などを中心に各教科、科目等の特質に応じて、どのように道徳教育を行うかについて、各教育活動の役割分担や工夫、留意すべき点など総合的に示した教育計画である道徳教育の全体計画を立てて取り組んでいます。具体的にご紹介いただいたような、乳幼児との触れ合いを通じて思いやりの心などを育む取組や、医師や助産婦の講演から命のかけがえのなさに気づく取組など、生徒一人ひとりが人間尊重の精神と命の尊さを敬う心を培い、生きることの素晴らしさの自覚を深めるとともに、より深く自己を見つめながら人間としての在り方、生き方の自覚を深めることにつながる取組を進めてまいります。

他にも警察と連携した規範意識を高める取組や、弁護士によるいじめ防止の出前授業など、各学校で様々な取組が行われています。また、県教育委員会では、学校訪問等の機会を通じて、これらのよ

うな「道徳教育」に関わる効果的な取組について情報提供を行い、各学校における「道徳教育」が一層充実したものとなるよう取り組んでいます。

本委員会としても、皆さんの心に届くような体験を通じて、自他の命を大切にする心や思いやりの心、責任感、規範意識等、豊かな心が育まれる教育活動が行われるようしっかりと調査、審査を深めてまいりたいと考えております。以上、ありがとうございました。

○桑名北高等学校

答弁、ありがとうございました。三重県の「道徳教育」についての取組や学校ごとの取組がとてもよくわかりました。これからも桑名北高校の取組をどうぞよろしくお願いします。以上で質問を終わります。（拍手）

津田学園高等学校

○議長（水谷友香）

津田学園高等学校、５番、伊藤璃音議員、６番、佐藤さくら子議員、７番、西山晃弘議員、８番、野呂貫太議員。

○津田学園高等学校（伊藤璃音、佐藤さくら子、西山晃弘、野呂貫太）

津田学園高等学校です。よろしくお願いします。

三重県南部の人口減少対策に関して伺います。私たちはいま現在、全国的に少子高齢化で人口が減少している中で、三重県の人口減少について調べてみました。

三重県全体としてみると、2005年をピークに人口は減少傾向にあり、人口の増加率は全国よりも低くなっていました。さらに調べた結果、少し古いデータではありますが、平成17年10月１日現在で、増加数が多いのは鈴鹿市や、桑名市などの北勢部と、津市や松阪市などの中部でした。これらの地域が増えているのは、名古屋などの大都市圏に近く、また工業地帯にも近いからだと考えました。一方で、減少していたのは、志摩市や伊勢市、鳥羽市や尾鷲市などの南部だとわかりました。

そこで、どうして南部は減少数が多いのか調べてみましたが、私たち自身もまず南部についてあまりよく知らないことに気づきました。私たちが知っていたのは、伊勢神宮や熊野古道などの歴史的なもののみで、地域についても2016年に伊勢志摩サミットが行われたことくらいしか知りませんでした。これらを踏まえて、私たちは全校生徒を対象にアンケートをとりました。

【パネルＢ－１】アンケートの内容説明とそれに対する考察をさせていただきます。

【パネルＢ－２】質問事項１では、「三重県の南部に行ったことがありますか」という質問でしたが「はい」が多い結果になりました。

【パネルＢ－３】２では、「１で「はい」と答えた人はどこに行ったことがありますか」という質問でしたが、このような結果になりました。

【パネルＢ－４】３では、「三重県南部で行ってみたいところはありますか」という質問でしたが「いいえ」の方が多い結果になりました。

【パネルＢ－５】４では、「３で「はい」と答えた人はどこに行ってみたいと思いますか」という質問に対してこのような結果になりました。

【パネルＢ－６】５では、「三重県南部について魅力的だと感じますか」という質問でしたが「はい」の方が多い結果になりました。

【パネルＢ－７】６では、「５で「はい」と答えた人はどのような点が魅力的であるか」という質問に対してこのような結果になりました。

【パネルＢ－８】７では、「５で「いいえ」と答えた人はその理由を説明してください」というものでしたがこのような結果になりました。

【パネルＢ－９～11】最後に質問事項８では、「三重県南部に人をひきつけるためにどんな対策をとるべきかアイデアを教えてください」というものでしたが、「イベントをたくさん開催する」や「交通の便を良くする」や「遊べる場所や観光場所をもっとつくる」や「有名人を観光大使にする」などの意見が出ました。これらのアンケートを踏まえて、考察をしたいと思います。

このアンケート結果から、私たち北勢部の高校生は三重県南部に対して、魅力的だと感じているにも関わらず、行ってみたい人は少ないことがわかりました。その理由は交通の便が悪いことに加えて、若者向けの場所がない田舎であるというイメージが大きいのではないでしょうか。

そこで、三重県で行われている人口減少対策について調べてみたところ、平成27年度から、県内外の人に向けて「ええとこやんか三重」というホームページを開設しており、移住や仕事探しなどのサポートを行っているということを知りました。

また、特に人口減少の著しい南部地域において、市町と連携した高校生向けの地域人材育成の取組として「地域づくりイキイキフォーラムinみえ」を開催して、地域の活性化に向けた取組や課題を共有し、人々と交流する機会を設けていることも知りました。また、南部への移住の促進は自然をアピールポイントとし、漁業や林業、観光業において主に就職支援を行っているように感じました。

全校生徒へのアンケートの結果からもわかるように、現在これらの政策の成果は、正直私たちにとってあまり実感することはできません。そこで、いま現在の県の取組の成果と、さらに今後の展望について聞かせていただきたいと思います。

○総務地域連携常任委員長（服部富男）

総務地域連携常任委員会、委員長の服部富男でございます。津田学園高等学校の伊藤議員、佐藤議員、西山議員、野呂議員におかれましても、今回ご質問いただきましたことを心から感謝を申し上げます。特に事前に全校生徒を対象にしたアンケートをとっていただくなど、しっかりとご準備をいただきましたことも、重ねて感謝を申し上げるところでござい

ます。

三重県の人口減少については、県北中部に比べ、県南部の人口減少率が高い傾向にあり、これは大きく二つのことが関係していると考えられます。一つ目は、都市部から離れており、人が集まりにくいという地理的な要因。二つ目は、大学等の高等教育機関がなく、また就職する場所も少ないなど進学や就職の際、多くの人が他の地域に出て行ってしまうということであります。

そこで、三重県では県南部に「住み続けたくなる取組」、「戻りたくなる取組」、「暮らしたくなる取組」を三つの柱として南部地域の活性化に向けた様々な取組を展開しているところであります。このうち移住の促進を目的とした暮らしたくなる取組では県および市、町の相談窓口等で把握した県南部地域への移住者数が平成27年度の68人から平成29年度は170人になるなど、徐々に成果が出始めているところであります。

しかし、今後も継続的に移住の促進を図るには、さらなる取組を行う必要があります。では、どのような取組が必要なのか。実はそのヒントが皆さん、全校生徒へのアンケート調査結果に隠されています。それは、南部地域を魅力的だと感じている人が約６割もいる一方、南部地域に行ってみたい人は約３割しかいないという調査結果がありましたが、魅力が伝わったからといって、その人たちが実際に地域を訪れるという行動を起こすわけではないということであります。

そこで今までのようにインターネット等による一方的な情報発信だけではなく、実際に県南部を訪れてもらい、そこで暮らす人や、食事、文化と直接触れ合うという実体験を通して、南部地域の魅力を体験してもらうことによって移住につなげる取組も進めているところであります。

本委員会においても、去る８月８日に鳥羽市と志摩市を訪れ、市が実施している都市部の人を鳥羽、志摩に呼び込むための様々な取組について調査してきたところであります。

日本全体で人口減少が進むと推測されている中、県南部の人口減少を食い止めることは簡単なことではありません。先ほどご説明した「暮らしたくなる取組」を進めるほか、集客、交流等によって産業振興を図る、「住み続けたくなる取組」、高校生の郷土への愛着を高めたり、南部地域の仕事、暮らしを知るインターンシップを促進するなど、「戻りたくなる取組」を同時に進めることが重要だと考えています。今回皆さんからいろんなアイデアをご提案いただきましたが、引き続き南部地域に関心を持ち、課題解決に向けご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○津田学園高等学校

答弁ありがとうございました。今後、三重県が今以上に栄えていくようにしていただきたいと思います。以上で質問終わります。（拍手）

四日市南高等学校

○議長（水谷友香）

四日市南高等学校、９番、川戸将矢議員、10番、森亮議員、11番、赤嶺直弥議員。

○四日市南高等学校（川戸将矢、森亮、赤嶺直弥）

四日市南高校です。よろしくお願いします。観光資源の活用についてお伺いします。**【パネルＣ－１】**現在、三重県では総人口の減少、少子高齢化、**【パネルＣ－２～３】**それに伴って生産年齢人口が減少していることが問題になっています。**【パネルＣ－４】**しかしその一方、三重県を訪れる観光客の数は増加しています。そこで、私たちはこの観光客の増加を生かした経済の活性化をしていけばよいのではないかと考えました。

三重県には、伊勢神宮、熊野古道、鈴鹿サーキットなどジャンルを問わずに様々な観光名所があります。特に、伊勢の地域は式年遷宮や伊勢志摩サミットで多くの観光客が訪れた実績があり、全国的にも知名度が高くなっています。しかし、このグラフを見てもらうとわかるのですが、イベントのある年は飛躍的に観光客数が増加しているのですが、その前年と次年においての増加は微々たるものです。大きなイベントごとに頼ることなく、持続的に増加させていくには問題点があると考えました。

まず一つ目に広報、宣伝活動の不足です。その一例に四日市市立博物館を一例に挙げたいと思います。そこは世界でもっとも多くの星を投影できるプラネタリウムがあり、それが世界ギネス記録に認定されています。しかし、そのことは現在、広報、宣伝活動に生かされていないために、それについて知っている人がほとんどいないのが現実です。これは広報、宣伝活動が十分になされていないことの一例だと考えます。本来生かされるべき魅力が隠されたままになってしまっているのはそのものに対して大きな損失であり、県内にもこれと同じような例が他にもあるのではないでしょうか。

二つ目に交通の利便性です。三重県の北勢、中勢地域の観光客は比較的多いのですが、南勢地域は少なくなっています。**【パネルＣ－５】**これは電車などの公共交通機関の整備が遅れていて、不便だからではないでしょうか。例えば、他県から三重県にアクセスする場合、多くの乗り換え、少ないバスの本数、長い所要時間やそれに伴う高い交通費など様々な問題があります。これは南勢地域だけでなく、県全体にもいえることです。交通網の整備は、観光という対外的な面だけでなく、県民の生活にも直結する問題でもあるので、この整備は長期的にみても有用であると考えます。

今回、主な問題点として、広報、宣伝活動の不足、交通の利便性という二つの項目を挙げましたが、その他にも多くの問題点があると思います。このような問題点について、どの程度把握なされていて、それに対してどのような対策を現在とっているのか、さらにこの先どのようにとっていくか、それについてお聞かせください。

○戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

四日市南高等学校卒業生の芳野正英です。後輩の皆さん、しっかりと取り組まれた質問をありがとうございます。先輩として答弁をさせていただくことに誇りを持って答弁をさせていただきます。

いろいろ、ご指摘をいただきました問題点、確かに、ご指摘いただいたように三重県は今まで大きなイベントごとに観光客が増えまして、その後がくっと落ち込むというのが現実的なことでありました。それではダメだということで、前回の式年遷宮以降ですね、確かに伊勢志摩サミットもありましたし、またあと昨年は菓子博、伊勢菓子博というのがありましたけども、こういうイベントもうっていくと同時にですね、効果的な、継続的な観光客の誘客というのを図っていこうと思ってます。

それは、後ほど答弁をさせていただくとして、まず一つ目の広報、宣伝活動の不足の部分ですけども、その一例、四日市市立博物館を挙げていただきましたけども、三重県は今の公式の観光サイトの「観光みえ」というのをサイトでつくっていますけども、ここに実は四日市のプラネタリウムっていうのは連携はされていませんので、ご指摘のように宣伝の方法ですとか、ギネスにも載っているプラネタリウムの宣伝ですね、こういうことをしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

それから二つ目の交通の利便性に関してもですね、地域の鉄道や幹線バスの路線維持を図るためには、国や関係市町と連携したまずは財政支援を行うとともに、陸上交通だけじゃなくてセントレアからの船ですとか、こういう海上交通も含めた幅広い公共交通機関の利用促進を検討して取り組んでいます。その利便性を高めるためには、目的地までの路線や乗り継ぎの検索をよりわかりやすくするための「三重県内の公共交通ネットワーク見える化」などの取組を市、町や交通事業者と連携して進めています。

また、今後はですね、リニア中央新幹線が東京―名古屋間で2027年に先行開業されます。そして2037年には、予定ですが大阪まで延びて、この三重県にもリニアの駅が開設される予定になっていますので、そうしたこともですね、しっかりと調査、研究を行って、観光ですとか、産業をはじめとする様々な分野で公共交通の波及効果を探っていきたいと思っています。

観光に関してですね、いくつか三重県が取り組んでいること、特に若い高校生からの質問ですので、たくさんやってるんですね観光政策。特にネット、ウェブサイトを使った取組を中心に説明をさせていただこうと思っています。まずは、先ほども申し上げましたけども、三重県観光連盟と連携して公式サイト「観光みえ」というのを活用して、戦略的なウェブプロモーションの取組を進めています。

特に、伊勢志摩サミットで世界から注目を集めた食、三重の食材ですね、これをテーマにしたウェブサイトの「みえ食旅物語」というサイトがあります。またよかったらメモして帰ったら見ていただければと思いますけども、三重県の食をレポートしてもらうような、これをサイトに載せてくようなことをしていますし、昨年は「＃（ハッシュタグ）みえ食旅ＳＮＳ写真投稿キャンペーン」というのをやりまして、要は皆さんから三重の美味しい、そして面白い食材を挙げてもらって、その中から優秀賞には景品を出すというようなこともさせていただきました。

また、今、インスタグラムですとか、そういう写真投稿サイトが非常に若者ですとか、外国人中心に取り組まれてますので、そのインスタグラムでも「＃visitmie」ですね。これでまた検索をしてもらいますと「＃visitmie」っていうので検索してもらうと、海外から来た方、国内から来た方もですね、三重県の観光の風景を撮ってもらって、そこにハッシュタグを付けてもらうという取組もしています。今、インスタグラムでも今日の時点で8,485件の「visitmie」って書いた投稿が出てますので、また、それも見てもらえばと思いますし、特に、その

「visitmie」の中でも台湾とタイランド、タイですね、特に「visitmie_tw」とか「visitmie_th」といって台湾から来るお客さんとか、タイから来るお客さんは特に自分たちでそういうふうに自国の人たちが上げてもらってまして、台湾からの投稿は今264件、タイランドから252件、三重県に来てもらって風景を撮って、インスタグラムに上げてもらう。こういう活動をしていますので、こういった欧米からの観光客とかアジアの富裕層向けの観光客に向けて、三重県に来てもらって、三重県の姿を捉えてもらうような、こんな取組をしています。他にも若い高校生の発想で、いろんな提案を、またいただければと思います。ご質問ありがとうございました。

○四日市南高等学校

答弁、ありがとうございました。一つご質問させていただきます。

今後、こういった観光方面に関して掲げていく目標のようなものがあれば教えていただければ幸いです。

○戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

はい。ありがとうございます。

三重県としても定点的にずっと観光入込客数とか、そういうのは数字であげてますので、今、確か420万人の、昨年は観光客の入込数がありましたけども、こういう統計をとってますので、それはずっと統計をとりながら、数年後の目標掲げてやっていますので、よろしくお願いします。また見ておいてください。

○四日市南高等学校

ありがとうございました。三重県の観光資源を最大限に利用して、県の運営に起用していただければなと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（水谷友香）

暫時休憩いたします。

〔休憩〕

○議長（伊藤璃音）

津田学園高等学校の伊藤璃音です。よろしくお願いします。（拍手）

休憩前に引き続き会議を開きます。

県政に対する質問を継続いたします。

暁　高　等　学　校

○議長（伊藤璃音）

暁高等学校、12番、田中公士議員、13番、村山瑛大議員、14番、水谷友香議員、15番、田中碧美議員。

○暁高等学校（田中公士、村山瑛大、水谷友香、田中碧美）

暁高等学校です。よろしくお願いします。

私たちが通っている暁中学・高等学校では、毎年、中学１年生に対して防災教室が実施され、また2011年の東日本大震災の後に「復興支援委員会」というボランティア組織が立ち上げられ、持続的に宮城県東松島市等を訪問し、ボランティア活動を実施しています。このような環境で学校生活を過ごしている暁中学校・高等学校の生徒を代表して、高校生の防災意識向上に向けて、一つの質問と二つの提案をさせていただきます。

現在、三重県では、起震車による地震体験や防災意識向上についての講演会、防災啓発車の運用等、県民の防災意識の向上に向けた取組だけでなく、生命や健康に直結する職業に従事されている方々に対する専門防災研修の開催も実施されています。実際、私たちの学校でも先に述べたように、起震車による地震の疑似体験をしたり、防災に関する授業が行われています。

また、私たちにとっては、学校のある四日市市のコンビナートにおいて、東日本大震災時の千葉コンビナートで起きた火災のような事態を避けるためのセミナーの実施は、過去の大災害を身近な地域に置き換えて考えることができるため、防災に対しての意識を高める大きなきっかけになっています。

さて、災害といっても様々な種類に分類されますが、特に県民の中で関心が高いのは「地震」についてだと思います。６月18日に起きた大阪北部を震源とする地震が起きた際も、携帯電話からなる緊急地震速報などで、学校は騒然となり、近々起きると言われている南海トラフ地震への心配はさらに深まりました。先日私たちが暁中学校・高等学校の生徒、約800名を対象とした「防災意識に関するアンケート」では次のようになりました。

【パネルＤ－１～２】現在行っている防災対策に関するアンケートの結果１から４番を見ると、災害に対する関心は高いという結果が出ましたが、**【パネルＤ－３】**災害時に具体的な行動を取ることができる自信があるかというアンケートに対しては、大多数の人が実際に取ることはできない、もしくは自信がないと答えました。つまり、防災意識は高いものの、防災訓練などでは、どこか他人事のような、身近でない気持ちもあり、身になっていない体験も多いのではないかと考えました。

ここで一つの質問です。このような現状を踏まえて、高校生の防災意識向上のために今後新しく取り組まれる施策についてお聞かせください。

また、私たちからはこの件について提案をさせていただきます。**【パネルＤ－４】**一つ目の提案は、アンケートから地域の防災訓練に参加した経験のある生徒が少なかったことや、主体的に防災訓練に参加した生徒の数が少なかったことから、地域の高校生の主体となった「防災キャラバン隊」のようなものを組織、各学校などで啓発運動や訓練の講習会などを実施してみてはいかがでしょうか。同じ高校生が教える、伝える側の立場に立つことで学ぶことも増えると思いますし、また受け取る側もより身近に感じることができるのではないかと考えました。

二つ目の提案はＳＮＳの有効活用についてです。**【パネルＤ－５】**私たちが実

施したアンケートにおいてＳＮＳで防災情報を得ることがあると答えた生徒の割合は高いものとなりました。しかし、現在三重県において実施しているTwitterやＬＩＮＥを利用した「防災みえ」の情報提供サービスにおいて、Twitterのフォロワーは６月30日現在1,226人、ＬＩＮＥの友達登録数も5,002人と、総務省東海総合通信局が出している2017年12月現在の三重県の携帯電話契約者数1,824,367人という数から考えるとまだまだ県民の間に浸透しているとは言えないのではないかと思います。これに対しては、県内の飲食店などとタイアップを行い、ＬＩＮＥの友達登録やTwitterのフォロワーになることで割引サービスや優待サービスを受けることができる、といったキャンペーンを防災の日などに実施してみてはいかがでしょうか。行政だけでなく、企業も含めた県民全員の防災意識向上につながると思います。また、現在発信されている内容は、注意報、警報の発表といった単調なものになっています。防災みえのホームページにあるような防災豆知識やクイズなど、我々の関心を高めるような内容も発信してみてはいかがでしょうか。

以上で質問と提案を終了させていただきます。

○防災県土整備企業常任委員長（小島智子）

防災県土整備企業常任委員会、委員長を務めています、小島智子と申します。暁高等学校の皆さん、ご質問いただいてありがとうございました。ご答弁をさせていただきたいと思います。事前アンケートを中高生にとって、ということで、しっかり準備をしてくださいました。そのことについてもお礼を申し上げたいと思います。

アンケート結果を見せていただくと防災意識は高いものの、災害時に自分がどのように行動してよいかわからないという割合が多いということですが、６月の大阪北部を震源とする地震、西日本での平成30年７月豪雨による大規模災害など、日本各地で災害が発生していて三重県民の一人ひとりが高い防災意識を持ち、災害時に自分自身が何をするかという意識を持つことが大変重要であると考えています。特に高校あるいは一部の小中学校においては、それぞれが住んでいる地域、そして通学路が違いますので、一人ひとりが、私自身の意識を持つことがより必要だろうと思います。

現在、三重県では高校生防災ノートの配布や学校での体験型防災学習、地域と連携した避難訓練を実施する際に、県職員を派遣したり、学校で防災学習をしていただいてると思いますけども、それを推進する先生方「学校防災リーダー」と言っていますけども、その方々を対象にした研修を行っているところです。そしてその先生が中心になってそれぞれの学校で防災活動を進めていただいています。

また、暁高校で実施されている東日本大震災での被災地でのボランティア活動と同様の同じような活動を「学校防災ボランティア事業」として、平成28年度から実施しています。この事業は中高生が自分の命を守り抜き、支援者の視点で、災害発生時に地域で自分から行動できる防災人材になってもらう。そのことを目的として行っています。

昨年度までは公立の中学校、高校生を対象にしたものだったんですけれども、今年度から募集対象を国立、私立の中学校、高校へと広げさせていただいて募集をさせていただいたところ、暁高校の田中さんも参加されたと伺っていますけれども、37人県内全域から、宮城県、福島県を訪問していただきました。そして暁

高校においては、報告をしていただいたというふうに聞いていますけれども、それぞれ参加された皆さんが、それぞれの学校でご報告をいただくということになっています。

「今後、新しく取り組む事業はありますか」というご質問でしたけれども、今のところ「このことを新しく進めます」という予定はありません。けれども、今行っているいろんな事業を拡大する、あるいは充実するという方向でしばらくは取り組んで行きたいと考えています。今年度行っていただいて、こういうことに問題点がある、こうすればもっと良くなるということについては、ぜひご意見を上げていただきたいと思います。

また、別のアンケートの項目では地域の防災訓練に参加した経験のある生徒が少ないという結果が出ましたけれども、県内には地域と連携した防災活動を行っている高校があります。例えば、四日市農芸高校という高校がありますが、農芸ということを生かし、授業で収穫したお米を「備蓄米」というふうにして保存をし、その備蓄米で炊き出し訓練を行う。三角巾包帯法の訓練では生徒が実演を行うなど、高校の専門性を生かしながら取り組んでいただいているところがあります。こういった事例を参考にぜひ暁高校さんにおかれましても、自分たちが中心になりながらどんな防災行動ができるかということを生徒の皆さんで考え、地域と連携した防災活動をぜひ実践していただきたいなと思うところです。

先ほど皆さんからご提案いただきました同じ高校生から伝える、そして教えるということ。このことについては11月に高校生フォーラムが行われます。年が変わって２月には中高生防災サミットというものも行われます。経験のある皆さん、ない皆さん問わず多くの参加を得て、それぞれが学び合う場にしていただければと思うところです。よろしくお願いします。

ＳＮＳの活用です。登録者数が少ないということは当委員会でも十分認識をしているところです。これからどんな手を使って登録者数を増やしていったらよいかということは一生懸命やらせていただきたいと思います。皆さんはＳＮＳが得意です。その年代ですのでどうか県民の皆さんに自ら広めるということも力をお借りしたいと思います。

最後です。今回の西日本豪雨で岡山県総社市で高校生が中心になって約50人が夕食の炊き出しをする、あるいはある一人の高校生の呼びかけによって1,700人以上の生徒が実際にボランティアに携わるということが起きています。若い皆さんの力に大変期待をさせていただきたいと思いますとともに、皆さんにお教えいただいた、この提案につきましても今後委員会の中でしっかりと反映できるように協議してまいりたいと思います。以上で答弁を終わります。ありがとうございました。

○暁高等学校

答弁ありがとうございました。三重県の若年層の防災意識向上に向けた県の取組をここにいる全員が深く理解できたと思います。さて、ここ数ヶ月を振り返ってみても、地震だけでなく西日本豪雨や未だ類を見ない進路をとる台風などにより大雨や土砂災害に対する危険意識は高まるのはもちろんのこと、７月から続く命の危険も考えられる異常なまでの暑さに伴い、公立小学校、中学校にクーラーを設置するか否かに到るまで、対応すべき問題は、まだまだたくさんあると思います。これからも県がどのような対策を生み出すか期待して僕たちの質問を終了させていただきます。（拍手）

津　高　等　学　校

○議長（伊藤璃音）

津高等学校、16番、藪和史議員、17番、長谷川瑞記議員、18番、的場優真議員、19番、湊哉太議員。

○津高等学校（藪和史、長谷川瑞記、的場優真、湊哉太）

今から津高等学校の質問を始めます。よろしくお願いします。私たちは、三重県における国際交流についてお尋ねします。質問するに当たり、国際交流について調べ、考えてみると、気になる点がたくさん出てきました。その中で特に三つの気になることがあります。

一つ目は、ＪＥＴプログラムを通じたＡＬＴ、ＣＩＲの働き方についてです。ＪＥＴプログラム、ＡＬＴ、ＣＩＲについては**【パネルＥ－１～２】**パネル１、２をごらんください。ＪＥＴプログラム参加者の中には、現在の日本では働き始めて３年以降は税金の関係で収入が減るため、３年以降に母国への帰国や他の職に就く人が多くいます。**【パネルＥ－３】**これはＪＥＴプログラム参加者の参加年数と人数のグラフです。このグラフを見ても、参加年数が増えるにつれて人数が減っていることがわかります。しかし、長期的な雇用には専門性を高められるなどのメリットがあり、津高校のＡＬＴにインタビューしたところ「現在３年目だが５年目まで継続し、できることなら、その後も続けられるなら続けたい」、「ＪＥＴプログラムの後の働き口を探さなければならない」とおっしゃっておられました。そこで長期的な雇用を見据えた工夫の余地があるのではないかと思います。

二つ目は、ＪＥＴプログラム参加者の人数についてです。三重県には公立小学校が371校、公立中学校が157校、県立高校が56校の合計584校があります。しかし、三重県にはＡＬＴ、ＣＩＲが合わせて112名しかいません。これは、学校数に対して少なすぎるのではないかと感じました。こちらもインタビューしたところ、そのＡＬＴの友人は１人で14校も掛け持ちしていて大変だと聞いたと言っていました。また、高校生県議会の事前交流会で四日市南高校の方と話し合った際、四日市南高校ではＡＬＴの授業があるのは１年生のときだけで、もっとＡＬＴとの授業があればよいと聞きました。そこで三重県全体のＡＬＴの数を増やすべきだと考えます。

三つ目は、ＪＥＴプログラム参加者の出身国についてです。**【パネルＥ－４】**このパネルを見ると全国のＪＥＴプログラム参加者の出身国は44か国あるのに対し、**【パネルＥ－５】**三重県では11か国からしか参加していません。これは語学学習の面では十分ですが、国際交流という面では、もう少し多くの国から招致する方が多様性を生み、よりたくさんの文化に触れ、自分たちが海外に目を向けるきっかけとなるのではないかと思うからです。

これらのことを踏まえて、三重県の国際交流の推進に関してどのようにしていくのかお考えをお聞きします。以上で質問を終わります。

○戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

津高校の皆さん、ご質問ありがとうございます。簡潔に答弁させていただきます。

ＪＥＴプログラムですね、先ほどパネルでもご紹介いただきましたけども、これは地方自治体が国の総務省と外務省の協力のもとに実施をしています。海外の青年をですね、日本へ招き入れて国際交流や外国語教育に携わってもらって、地域における国際化を推進するというのが目的でありますけれども、確かにですね、先程、図表で見ていただいたみたいに、１年目が2,000人ぐらいいてもですね、５年目には300人になってしまうというですね、これなかなか最長５年という制度が設けられていますので、この制度自体の仕組みがあって、どうしても、なかなかそれ以上、いかないんですけども、ただ、その中で５年間は５年間ずっと続けてもらえるような取組ってのが必要なのかなって思ってますので、このことについては私たちの委員会でもこれからいろいろ調査や研究をしていきたいと思ってます。

この５年の期間で人が変わっていくっていうのもまた一つの国際交流のいろんな方々との交流という部分では効果的だと思ってますので、この５年を有効に使えるような取組をしていきたいというふうに思っています。

また、そのＡＬＴの増員ですけども、確かにこれから英語教育というのは大学入試も含めまして大きく変わってきますので、このＡＬＴの増員についてもしっかりと県としても取り組んでいきたいなというふうに思ってます。今、県立高校で54校の中でＡＬＴさんが44名ですので、確かに中にはそういう14校掛け持ちですとかね、いくつかの掛け持ちしているＡＬＴさんもいると思いますので、質の向上というのもしっかりと図っていきたいと思ってます。

それからＪＥＴプログラムの参加者の出身国ですけども、先ほど示していただいたみたいに44か国あるんですけども、ほとんどがアメリカとかイギリスとか英語圏の国が多くてですね、例えばフランスでも今年は全国で４人、ドイツは全国で２人とかですね、結構、国の数は多いんですけど、１桁の参加者しかいない国もありまして、全国的にどうしても要望いただくのは英語の授業で使われるので英語圏の12か国からくるのが一番多いというふうになってます。三重県はその英語圏の12か国の中の11か国をＡＬＴとして配置をしていますので、その中でしっかりとそれぞれの地域の特性を生かした英語教育をしてもらおうと思っています。

英語圏以外の国との交流というのはですね、三重県の国際交流財団というところが外国人講師の派遣事業というのをやってますし、ブラジルの方なんかは三重県は日系ブラジル人の子どもたちも多いもんですから、そういう部分では交流もできてるのかなというふうに思っていますが、こういうＡＬＴ以外の部分でも国際交流を積極的に図っていこうと思ってます。

三重県では、伊勢志摩サミット等もありますので、世界の舞台で活躍する高校生というのをですね高めていこうとしていまして、英語だけで講演やディスカッションを行う「みえ未来人育成塾」という事業を実施していますし、また「世界へはばたく高校生応援プロジェクト」というものも実施していますので、高校生の皆さんは授業で受けるだけじゃなくて、異文化に触れて自らの足で海外へ飛び出していくような、そんな機運を身につけていただきたいなというふうに思っています。以上で終わります。

○津高等学校

答弁ありがとうございました。外国人の雇用環境がより公正なものとなり、国際交流の機会が増えるようにこれからもよろしくお願いします。以上で質問を終わります。（拍手）

津　西　高　等　学　校

○議長（伊藤璃音）

津西高等学校、20番、野口陽平議員、21番、小瀬古圭慶議員、22番、岩﨑拓議員。

○津西高等学校（野口陽平、小瀬古圭慶、岩﨑拓）

津西高等学校です。よろしくお願いします。

私たちは自動車の利用とＣＯ２削減について質問、提案させていただきます。

地球温暖化はＣＯ２が主な原因だと言われていて、その対策として三重県でも温室効果ガスについての条例が制定されています。三重県は、自動車の保有台数が人口100人当たり62.54台と全国平均よりも多いため、それに比例してＣＯ２の排出も多いと思われます。そこで私たちは、自動車によるＣＯ２の排出に目を付けました。自動車の利用を減らすことでＣＯ２を削減する方法について三つの案を提示します。

一つ目は、自治体と道の駅がタイアップした訪問販売の拡大です。**【パネルＦ－１】**先例として青森県「道の駅よこはま」には高齢者宅への配食や野菜の集荷、出張販売を道の駅がするという「ぐるっと隊」があります。この案に加え、回覧板に道の駅の商品カタログと注文表を添付し、その商品を道の駅から注文者近くの自治体にある公民館などの共同スペースまで輸送することで高齢者のコミュニティを拡張し、さらに過疎地域だからこそ必需品になってしまっている自動車の利用を減らし、ＣＯ２の削減ができると思います。

二つ目は、公共発電自転車の開発と普及です。**【パネルＦ－２】**内容は、発電機を搭載した自転車と送電機と蓄電器を常備した駐輪場を県内に設置し、それを県民の方に公共物として無料で利用してもらうことです。現在、三重県でも、熊野市でレンタサイクルが実施されていますが、あくまでレンタルですので、利用料を支払う必要があり、利用しにくいかと思われます。そこを公共にすれば、自動車の利用を減少できると思います。また、電動アシスト自転車の発電機能でつくり出される電気を別のものに利用することで再生可能エネルギーの代替品となり、ＣＯ２の削減が可能になると思います。

最後に、高齢者による自動車の事故が問題視され、高齢者の免許返納が求められる中で、一度に多くの客が利用できるバスの存在に着目しました。**【パネルＦ－３】**宅配サービスと旅客の乗降との両方の機能を併せもつ、小型のバスを利用することを提案します。利用客数が少ない時間帯に６人程度の旅客を乗せることができ、かつ食品等の冷蔵が必要な商品を運搬できるバスを走らせることで買い物難民に対応します。また、可能ならば既存のバス路線を活用すれば、導入時の動揺を和らげることが可能かと思われます。車体の大きさを調整すれば、都市や山間などの様々な地域で利用できるので幅広い需要に応えられます。

このように旅客と貨物を同時に乗せる貨客混載は日本全国で進められており、多くの企業が参加しています。

これらの提案を県で主体的に取り組むことで、個人では関わりにくい環境問題も地域で積極的に取り組め、地域の輪が広がっていくと考えます。このような環境問題に対する提案について環境部署の方、ご検討をお願いします。

○環境生活農林水産常任委員長（廣耕太郎）

今回、自動車利用を減らすことによるＣＯ２削減をテーマにし、高校生ならではの創意工夫に満ちたご提案を３点いた

だいたことに心から感謝を申し上げます。

まず１点目のご提案の自治体や道の駅とタイアップした訪問販売の拡大についてですが、ご提案の通り魅力的な商品カタログを準備することで自動車利用の削減ということのみならずビジネスモデルとしても十分に機能することが考えられます。しかしながら、そこで問題なのがそもそも住民のニーズというのは多様化しておりまして、住民のニーズにあった商品カタログを準備できるかどうかという問題や、住民に対してですね、満足できるだけの配達の回数ですね、頻度を上げていくことができるかどうか。こういった問題があります。そしてまた買い物に出掛けること、楽しみにしておる高齢者もいらっしゃるのじゃないかなということも挙げられます。ご提案の取組に当たっては、住民のニーズがどこにあるのかを把握し、研究してまいりたいと考えております。

二つ目の公共発電自転車の開発、普及についてですが、自転車は環境対策としては極めて優れた乗り物でございます。また自転車での発電は東日本大震災に伴う、福島原発事故で計画停電の可能性が高まる中で、自転車発電機の設置を進める方針が示された経緯があり、これまでも関連団体等で開発や研究が行われております。しかしながら自転車によって生み出される電力は極めて少量でございまして、かなり大量に自転車を用意しないと採算ベースに合わないというふうなことも問題になります。現在、自転車による発電はシンボリックな取組の一つに留まっている段階でありますので、大規模発電による電気の大量消費から身近な小型発電による省エネへと県民意識の転換を促すことと合わせて研究してまいりたいと考えております。

最後に、小型バスの有効活用についてでございますが、三重県では昨年10月に佐川急便と包括連携協定を結んだところでございます。輸送ネットワークの効率化による配送品質の向上等を目的に、バス事業者を交えて貨客混載事業の検討を進めております。事業者間調整に一定の時間を要しますので、直ちに実現できるというものではありませんが、環境負荷の低減や資源の有効活用という観点からも、有益な取組であると考えておりますので、今後も前向きに進めていくよう執行部に求めていきたいと思っております。

本委員会としましても、今後も引き続き県民、事業者、行政等が連携して地球温暖化対策に取り組むことによって、新たな豊かさが実現できる、低炭素社会を実現できるようしっかりと議論を深めていきたいと考えております。以上です。

○津西高等学校

答弁、ありがとうございました。三重県の環境を守るために自分たちが今後どのように行動すればよいのかを考えるきっかけとなりました。現在、津西高校２学年では、身近な地域の課題についてグループで研究する探求活動を行っており、この夏、県庁の方にもいくつかのグループがお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

今回、ここで得た知識を広く伝え、そして探求活動に生かしていけるよう頑張ってみたいと思います。また、豊かな地域づくりのために三重県と東京大学が連携することを耳にしました。鈴木知事の東大金曜講座でのお話、先ほどのお話を聞き、これからの三重県の環境をより良くしていくのは僕たち高校生自身なのだと感じ、三重県の明るい未来を切り開くために積極的に行動していきたいなと思いました。以上で質問を終わります。

（拍手）

三　重　高　等　学　校

○議長（伊藤璃音）

三重高等学校、23番、伊藤綾香議員。24番、小林大輝議員、25番、伊達愛菜議員、26番、村上心議員。

○三重高等学校（伊藤綾香、小林大輝、伊達愛菜、村上心）

三重高等学校です。三重県の教育と順位の捉え方について質問します。

最近、私たちが通っていた小学校、地元の中学校で徒競走やマラソン大会で順位をつけなくなったり、テストの順位も公表されなくなっていることを知りました。私たちにとって順位をつけられるのは当たり前で、この変化に興味を持ち、実際に教育活動で順位をつけることについて考えました。

まず初めに順位をつけられることで生まれるメリット、デメリットについて考えました。メリットとしては、秀でている部分を評価してもらえること、切磋琢磨できることなどが考えられます。しかし、デメリットとして、順位がいじめや冷やかしの原因になる可能性があること、苦手な部分が人の前に晒されてしまうこと、悪い結果から自分に自信が持てなくなってしまうことなどがあることも事実です。

そこで私たちは、中学１年生、３年生、高校２年生を対象にアンケートを作成し、スポーツと勉強それぞれの順位に対しての関心や感じ方を調査しました。私たちの予想では順位があまり良くない生徒は、順位をつけられることに対して否定的、無関心な傾向があり、逆に上位の生徒は順位をつけられることに対して、少なからず意識していること、高校２年生に対して中学１年生の方が順位に否定的であることがあがりました。

結果は予想とは少し違い、順位をつけられることの賛否に成績の優劣は関係していませんでした。しかし勉強よりもスポーツの順位に否定的な意見が多く、主な理由として「運動能力には限界があること」、「スポーツを純粋に楽しめなくなること」、「身体的なハンディキャップをもつ人に配慮すると順位をつけないほうがよい」というものがありました。

以上のアンケートの結果を踏まえて、私たちは順位をつけることで良い結果が出れば努力が評価され、たとえ悪い結果が出ても次に向けての改善策を考え努力するので順位がモチベーションの一つになると考えました。順位をつけることは競争を学ぶ上で必要なことだと思います。得意、不得意はどちらも個性であり、様々な理由をつけてすぐ排除するのではなく、順位から個性の尊重や相互理解を学ぶべきだと思います。

そこで質問です。学校での教育活動で子どもに順位をつけることについてのお考えをお聞かせください。

○教育警察常任委員長（木津直樹）

三重高等学校の議員の皆様には、順位の捉え方についてということでアンケートをもとに大変有意義な、なかなか答弁の難しいご質問をいただきましてありがとうございます。

まず学校教育におきましては、全ての子どもたちがそれぞれの個性や特徴を尊重し合いながら、自らの力をバランス良

く伸ばしていくことが大切であります。また集団の中で切磋琢磨しながら、互いに成長しながら高め合っていくことも重要です。

教育活動で順位をつけることはそれぞれの子どもが、自分が奮起するきっかけになったり、自分が頑張った成果を見て満足感を得られたりすることもあるのではないでしょうか。一方で順位をつけることで、過度な競争が煽られたり、負担を感じる子どももいることに配慮しつつ、学校における教育活動を進めていくことも必要ではないかと考えております。

いずれにいたしましても議員の皆さんが学校での教育活動の中で、今後どのような点に注意して学習すべきかに気づき、できなかったことを克服できるようにすることが大切かと思います。三重高等学校の議員の皆さんが、教育活動における順位の捉え方について、興味を持って、アンケートをとられて分析してくださったことは大変素晴らしいことだと思います。時代を担う皆様には、確固たる自分の軸を持ち、他者との絆を大切にしながら豊かな未来を切り開くような力を、学校教育を通じて身につけてほしいと思います。以上、答弁をさせていただきます。

○三重高等学校

答弁ありがとうございました。貴重な意見を聞くことができてとても勉強になりました。自分たちも今回聞かせていただいた意見をもとに、これからもこの問題に関してしっかり考えていきたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（伊藤璃音）

暫時休憩いたします。

〔休憩〕

○議長（田中碧美）

暁高等学校の田中碧美です。よろしくお願いします。（拍手）

休憩前に引き続き会議を開きます。

県政に対する質問を継続いたします。

セントヨゼフ女子学園高等学校

○議長（田中碧美）

セントヨゼフ女子学園高等学校、27番、樋口実波議員、28番、山中美穂議員、29番、瀬分葵議員。（拍手）

○セントヨゼフ女子学園高等学校（樋口実波、山中美穂、瀬分葵）

セントヨゼフ女子学園高等学校です。よろしくお願いします。

三重県の過疎化対策として、外国人を受け入れるという視点から、私たちの考えとともに質問させていただきます。

年々深刻な少子高齢化が進むことで、産業の衰退や地方の活動の停滞が懸念されています。近年は三重県でも、東京一極集中を是正し、人口減少に歯止めをかけようとしていますが、なかなか難しいようです。その理由の一つとして三重県は、名古屋、大阪、京都といった都市が周りにあり、観光客誘致の面で不利なことが挙げられるのではないでしょうか。

三重県が人口を獲得するためには、他県にはない三重県ならではの政策を執り行うべきです。人口を増やすというと日本人を呼び込むというイメージが強いのですが、都市部に人口が集中していることを考えると、日本の若い人々は都市部に魅力を感じるようです。そこで私たちは、外国人の転入者を受け入れ、「外国人に選ばれる三重県」を目指す政策を提案します。

【パネルG－2】２のグラフをごらんください。これは東京圏へと出ていく日本人の人数に対して、その都道府県に入ってくる外国人の比率を表したものです。これを読み解くと、一番左端の三重県の比率が近隣の愛知県や滋賀県の比率を大きく上回っており、三重県は外国人が転入しやすい県であるとわかります。

海外の人々が働き口を求めて日本に来るのであれば、周辺の都市へのアクセスが良く、県内にも企業や工場が多い三重県は、まさに外国人が住みやすい環境だと考えたからです。

【パネルG－1】１のグラフをごらんください。このグラフは人口全体に対する都道府県間移動者の割合です。どの世代でも日本人の黒いグラフを外国人の赤いグラフが上回っており、外国人は日本人よりも都道府県間を活発に移動していることが読み取れます。また、海外の人々と生活する中で交流が生まれ、異文化を理解する動きが広まれば、将来を担う子どもたちを含む県民の視野が広がり、グローバルな人材を育むことにもつながると考えます。さらに、異文化との交流を生かして、新たな観光資源を生み出すこともできるかもしれません。

一方で、群馬県大泉町のように、もともと暮らしていた住民と、受け入れた外国人との間で、文化の摩擦が起こることもあり、外国人を受け入れることについて批判的な考え方を持つ住民もいます。意思疎通の方法や治安の悪化、住む場所の確保や日本人の働き口の減少など、考えられる課題には枚挙に暇がありません。また、外国人を誘致して終わりではなく、海外の人々に向けた社会福祉の充実や、日本にうまく溶け込めているかなどのサポートを充実させることも考えなければなりません。

そこで議員の皆様に二つ質問します。

地方創生の視点で外国人を受け入れることについて、どのような対策をとっていますか。異文化との交流を生かして、新たな観光資源を生み出すのはかなり長期的な視点が必要ですが、可能だと考えますか。以上で質問を終わります。

○戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

セントヨゼフ女子学園高等学校の皆さん、質問ありがとうございます。外国人

の受け入れについての質問について答弁をさせていただきます。

グラフにありましたように、三重県というのはですね、非常に今、外国人の住民の率が高い県でありまして、全国でも５番目の外国人の居住率となってます。大体人口の1.7％が外国人というのが今の三重県の現状でありまして、人数で言いますと47,665人、これ平成29年ですけども、47,000人ぐらい外国人の住民がいるということです。一番多いのがブラジル人、日系ブラジル人の12,993人というのが多くて、鈴鹿市で3,432人、四日市市で2,199人、津市では2,118人と特に、北勢、中勢にこのブラジル人の方を中心とした外国人がたくさん住んでいます。

ご指摘をいただいたようにですね、外国人を受け入れることについて、これまで暮らしていた日本人の方と外国人の方との軋轢というのも生じてきておりましたので、それを具体的に取り組む日常的な生活支援というのは各市が取り組んでますけども、県としても広域で解決すべき課題に取り組んでいます。

平成28年の３月に「三重県多文化共生社会づくり指針」というのをつくりました。外国人との交流というのは多文化共生という政策用語で使われていますけども、その大まかなルールづくりを再訂をしましたし、「三重県外国人住民会議」というのを開催をして、外国人住民の意見を聴くようにしています。

一方で、例えば病院に行ったときの言葉が通じないための医療通訳の育成、配置ですとか、災害時の支援体制の整備とか消費者被害の、消費者犯罪の防止事業とか外国人住民の安全で安心な生活への支援も三重県として行っています。

こうした外国人住民の皆さんですね、これから国の方でも制度がこれから大きく変わる可能性があります。三重県としてもそういう国の制度にのっとって、また適切な対応をしていきたいというふうに思っております。

それから外国人が永住者として住むことによって、新しい観光資源ということなんですけども、現実に確かに津市ですとか、亀山市に住んでいる、例えばブラジル人は、この暑い夏場は川岸でキャンプをしたりするんですね。たくさん行ってもらうと、結構、亀山なんかでも、石水渓なんかでもキャンプというかバーベキューをしてる外国人がいまして、そういうときにやっぱり表記を外国表記に変えていくとかですね、外国人の方が利用しやすいようにしていくことが同時に永住者として住んでる外国人だけじゃなくて、県外とか国外から外国人の観光客を呼び込むときのツールにもなりますので、そのご指摘をいただいた、質問をいただいた視点というのは、先ほど四日市南高校の質問にも答えましたけど、観光事業という側面も、確かに考えていけるのかなというふうに思っていますので、永住者の外国人の皆さんと観光者として来られる外国人、両方にとって訪れやすい三重県をやっていくために、しっかりと取り組んでいきたいと思います。質問ありがとうございました。

○セントヨゼフ女子学園高等学校

答弁ありがとうございました。地方創生のために外国人を受け入れようという県の姿勢を詳しく知ることができました。これで質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

久　居　農　林　高　等　学　校

○議長（田中碧美）

久居農林高等学校、30番、信藤聡仁議員、31番、前田一樹議員、32番、魚見新議員。

○久居農林高等学校（信藤聡仁、前田一樹　魚見新）

久居農林高等学校です。よろしくお願いします。三重県の「木育」施設について質問させていただきます。

私たちは、本校の環境保全コースで、森林環境や林産物のことを中心に学習しています。こちらがその実習の写真です。本校には演習林があり、その中で実際に伐採や植樹を行うのですが、急傾斜の演習林も林道があることで、奥の方まで登って行くことができます。しかし、最近では毎年のように台風や豪雨による被害が発生し、演習の再開には林道の復旧に時間がかかります。

三重県では平成26年度から「みえ森と緑の県民税」が導入されており、これまでの３年間に防災対策を中心に26億4,700万円の支出がなされています。この税金は森林の整備にも使われているようですが、その一方で「木育」にも支出がなされていることを知りました。

「木育」とは平成18年に北海道で始まった「木材利用に関する教育活動」のことで、木に触れ、木を使うことで木や森林との関わりを考えらるようにするための取組のことです。三重県には既に伊賀市や菰野町などに「森林公園」はありますが、ドイツの「森林体験センター」のように被災した森林が再生していく様子までがわかる展示はありません。また、大阪万博記念公園のような樹木の一番上を観察できる空中観察路も多くありません。こちらが空中観察路の写真です。そしてこちらが木材を利用してつくった展望台です。１本１本の木の特徴を覚えることも大切ですが、様々な木が集まっている姿を見ることも大切です。

そこで、従来の「森林公園」よりももっと安全で気軽に県民が利用できる「環境教育林」及び「森林学習施設」の設置を提案したいと思います。このような「木育」の中心となるセンターがもっと必要ではないでしょうか。**【パネルＨ－１】**因みに三重県はこうした森林学習施設の数もわずか19で全国平均の22に及ばず、東海４県の中でも最も施設の数が少ないです。県内各地域に一つずつ増やしてみてはどうでしょうか。また三重県には植物園が設置されていないようですが、植物園としての役割もこのセンターが果たしていけるのではないでしょうか。三重県にはこのような施設が必要であると考えますがいかがでしょうか。以上です。

○環境生活農林水産常任委員長（廣耕太郎）

久居農林高等学校の皆さん、ご質問ありがとうございます。今の質問は大きく二つに別れていると思っております。

まず一つは、従来の「森林公園」よりももっと安全で気軽に県民が利用できる「環境教育林」及び「森林学習施設」を設置してはどうかということと、もう一つ、二つ目は、木や森林を学べる施設が今こそ三重県に必要ではないか、どう考えているか、というこの二つだと私は思っております。

まず一つ目ですが、三重県では県土の64%を占める森林を県民の共有の財産と捉えて、豊かで健全な姿で次代に引き継がれるよう、平成17年度に「三重の森林づくり条例」を制定しまして、県民が森林について学ぶ機会の確保に努めております。そして、森林をフィールドとした体験学習などの「森林環境教育」を通じて、県民の皆さんの森林に対する理解の促進に取り組んでいるところでございます。

二つ目に平成26年４月の「みえ森と緑の県民税」導入を契機に「森林環境教育」、「木育」の取組を本格化させるとともに、平成28年４月には取組をサポートする拠点、「みえ森づくりサポートセンター」を津市白山町の林業研究所内に開設し、「森林環境教育」、「木育活動のコーディネート」、「指導者の紹介」、「出前授業」などに取り組んでおります。この林業研究所内には、身近な樹木を観察できます「樹木図鑑園」が設置され、平日は一般公開を行っておりますので、より多くの県民に活用するよう、さらなるＰＲに努めていきたいと思っております。

また「みえ森と緑の県民税」を利用、活用して現在、津市では市民が森林や環境保全を学べる場所として「美里水源の森」を整備しているところです。県としましても、こうした施設が各地域に必要と考えており、市町や民間事業者とも連携しながら、安全で気軽に県民が利用できる森林環境教育の実戦フィールドや常設型の木育体験施設を新たに整備するとともに、「みえ森づくりサポートセンター」を核として、各地域の施設とも連携しながら、「森林環境教育」や「木育」の充実を図っていきたいと考えております。

本委員会としましても、将来を担う皆さんが森林への親しみや理解を深め、県民みんなで未来に豊かな森林を引き継いでいけるよう、木や森林を学べる施設の充実や、「森林環境教育」、「木育」のさらなる促進に向けまして、いただいた内容を参考にしながら、しっかりと議論をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。以上です。

○久居農林高等学校

答弁ありがとうございました。これからも実習を頑張り、一人でも多くの人が森林に関心を持ってもらえるように我々も努めていきたいと思います。以上で質問を終わります。（拍手）

名　張　高　等　学　校

○議長（田中碧美）

名張高等学校、33番、齋竹渚議員、34番、杉田香乃議員、35番、池田彩香議員、36番、川向彩和議員。（拍手）

○名張高等学校（齋竹渚、杉田香乃、池田彩香、川向彩和）

三重県立名張高等学校です。よろしくお願いします。

高齢者の人権について、議員の皆様にご意見を伺いたく質問させていただきます。近年、日本の高齢化率は年々上昇しています。私たちにとっても、高齢化率の上昇は見過ごせない社会問題であると考えます。

さて、私たちが通う名張高校は伊賀盆地に位置しています。三重県の中でも極めて起伏の激しい山間に団地があります。一方、伊賀市は広く平坦ですが、限界集落ともいえる、街から離れたところに多くの人が暮らしています。**【パネルⅠ－１】**こちらをごらんください。この地域の高齢化率は全国平均よりも高く、名張市は28.3％、伊賀市で31.7％です。今後も上昇し、2045年には伊賀市では45.5％になると推定されています。

高齢者は交通事故を起こすリスクが高いと言われていて、私も以前、高齢者の車と歩行者の軽い接触事故を目撃したことがあります。三重県では高齢者の運転免許の自主返納を勧めていますが、伊賀地域では車がなくては生活できない現状があり、運転免許を自主返納していない高齢者も多くいると考えています。

実際、祖母に意見を聞いたところ、「近くにスーパーがなくて、車を運転できる人がいないと買い物に行けなくて不便だ」と言っていました。祖母は食材を宅配してもらえるサービスを利用していて、知り合いの高齢者の方にもこのサービスを勧めていました。しかし、考えてみて下さい。宅配サービスに頼れば便利かもしれませんが、外出できないということは、高齢者の健康維持や自由な生活からはかけ離れていると考えられます。このことから不自由なく暮らしているとは言い難い現状です。

他にも高齢者の人権が脅かされていることがあります。現在、インターネットが普及していますが、高齢者はインターネットを使える環境が十分でなかったり、操作についても不自由であったりし、情報が届くのが困難になっています。またオレオレ詐欺や悪徳商法の被害もあります。これらに関しては、数年前からニュースになっていますが、被害者の数は昨年より増加しています。**【パネルⅠ－２】**こちらをごらんください。内閣府が実施した「人権擁護に関する世論調査」によると、「高齢者に関し、現在どのような人権問題が起きていると思うか」という質問に対して、「悪徳商法の被害が多いこと」と答えた人の割合が最も高く、50.6％でした。次に「経済的に自立が困難なこと」と答えた人が40.6％、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」が39.3％でした。この後に「高齢者が邪魔者扱いされ、つまはじきにされること」「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が続きます。働いていない高齢者の経済状態は厳しく、体力などが落ちて弱者として虐げられるのを多くの人が問題視しています。

このような被害は、起こってからでは遅いと思います。県として、高齢者がいきいきと生活していくために、どのような施策を行っているのでしょうか。お聞かせ願います。

○環境生活農林水産常任委員長（廣耕太郎）

名張高等学校の皆さん、ありがとうご

ざいます。それでは答弁をさせていただきます。

近年、日本では人口の４人に１人が65歳以上の高齢者となっており、少子高齢化が急速に進展しています。また「高齢化社会」が進み、身体機能等の低下や疾病、認知症などの症状にある高齢者の増加、高齢者の虐待や、財産を騙し取る等の高齢者への尊厳を否定する事件、一人暮らしの高齢者の孤独死など社会問題として報道でも度々、取り上げられており、こうした高齢者の人権問題に十分な注意を払う必要があると考えております。

一方で、平成30年の１月から２月に実施した第７回の県民意識調査では「100歳まで生きること」について「不安である」と答えたのが38.3％と最も高い結果となっております。このため、県ではダイバーシティ、ダイバーシティというのは「多様性」という意味です。ダイバーシティ社会を目指す「ダイバーシティみえ推進方針」や人権施策を推進する「三重県人権施策基本方針」、高齢者を取り巻く課題に対応するための「みえ高齢者元気・かがやきプラン」を策定し、高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる社会づくりに取り組んでおります。

「人権が尊重されるまちづくり」のための支援では、高齢者の人権が保障され、地域でいきいきと生活していくため、高齢者が地域で「居場所」を持つとともに、「人権が尊重されるまちづくり」をどう進めていくかについて学習会、研修会に講師を派遣し、住民組織、ＮＰＯ団体等の取組を支援をしております。

高齢者の虐待防止につきましては、関係団体と連携し、弁護士等、専門職で構成される「三重県高齢者虐待防止チーム」を設置し、県内の市町相談窓口等に対し、虐待防止と発生後の対応をサポートしております。また、市町職員や介護施設職員等を対象に高齢者の権利擁護に関する研修を実施するなど、高齢者の権利擁護の充実に取り組んでおります。

次に、高齢者の運転免許証の自主返納について、県では高齢者が運転免許証を自主返納しても安心して日常生活を送ることができるよう、バスやタクシー運賃の割引など、民間事業者によるサポート事業を募集、公表し、運転免許証を自主返納しやすい環境整備に努めております。加齢による身体的能力の衰え等から車の運転に不安を感じる高齢者が運転免許証を自主的に返納することは、高齢者が交通事故の加害者となることを防ぐだけではなく、怪我をしたり、尊い命を落とす、などの被害者となることを防ぐことにもつながります。「高齢者である」との理由だけで無理に運転免許証を返納するのではなく、車の運転に不安を感じる方は家族等ともよく相談をして決めていただき、安心で安全な生活を送っていただくことが重要であると考えております。

次に、高齢者の消費者被害の防止に関しましては、悪質商法や架空請求の被害から高齢者を守るため、三重県消費生活センターにおいて消費生活相談を行なっております。

しかし、相談があった時点でもう既に手遅れで、被害を回復できない場合もあり、被害に遭わないよう悪質商法の手口と対策についての啓発や、被害後にできるだけ早く相談してもらえるように、消費生活センターの存在をＰＲする、の２点について出前講座を行うなど、広く啓発活動を行っております。

今後とも、県として高齢者が健康で生きがいをもって活躍し続けられるとともに、いつでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる三重県を目指して、市町をはじめ様々な関係者、関係機関、団体等と問題意識を共有し連携、協働して、

課題解決に向けて取組を推進していきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。以上です。

○名張高等学校

答弁ありがとうございました。

高齢者がいきいきと生活していくために一つ提案します。それは高齢者に対する直接の施策だけではなく、若者の定住が必要だということです。現在、三重県では「ええとこやんか三重移住相談センター」の開設に加え、名張市では「名張市若者移住定住チャレンジ支援事業」を行っています。

今年度は民泊や農泊の分野で起業する若者らも対象としています。これらの事業では成果も見られ、昨年度、伊賀地域への移住者は74人でした。三重県を活気づける素晴らしい成果が見られ、私たちも県民として喜ばしい限りです。そこで注目したいのが三重県の移住の理由として「自然環境の魅力」が挙げられているということです。この「自然環境の魅力」をさらにアピールすることで、さらなる移住の促進を図るべきであると考えます。以上で質問を終わります。（拍手）

紀　南　高　等　学　校

○議長（田中碧美）

紀南高等学校、37番、西垣内悠太議員、38番、上地真也議員、39番、中南開晴議員、40番、大谷怜緒那議員。（拍手）

○紀南高等学校（西垣内悠太、上地真也、中南開晴、大谷怜緒那）

紀南高等学校です。よろしくお願いします。

私たちは学校における中高校生の共助の意識向上や活動の普及について質問します。私たちは現在、紀南高校で日本赤十字社の理念の実現を目指す、ＪＲＣ部に所属しており、今月から三重県のリーダーとして活動しています。ＪＲＣ部は、県内の高校では10校と、特別支援学校１校が加盟しており、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」を目標とした活動を行っています。

【パネルＪ－１】こちらは、先月行った平成30年７月豪雨災害への募金活動の様子です。**【パネルＪ－２】**また、こちらは本校が行っている地元の福祉施設に車椅子を送るために集めた、換金する前のアルミ缶です。

これ以外にも、本校ＪＲＣ部では、「健康・安全」の分野において積極的な活動を行ってきました。例えば、救急法講習会に参加し、ＡＥＤを用いた心肺蘇生や、怪我、骨折などの手当、傷病者の搬送方法のほか、実際の災害現場を想定した総合実技などの学習を行ってきました。

【パネルＪ－３】こちらは、三角巾を使った止血法を練習しているところです。**【パネルＪ－４】**昨年度は先輩たちが、

救急法競技大会にも参加し、いざというときのために活動を行いました。

ところで、今年２月、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70から80％という報道がありました。また、地震だけでなく、先月発生した平成30年７月豪雨災害をはじめ、昨年の台風21号のような台風や、集中豪雨などの風水害が毎年のように発生しています。紀南高校でも昨年の台風21号や７年前の紀伊半島豪雨災害のときに大変な被害に遭いました。こうした自然災害時やその後の復旧・復興においては、ともに助け合う「共助」の精神が大切であり、その実現のためには、中高生の力は必ず必要になると考えます。しかし、今の私たちはそのような場面において、適切に行動することができるでしょうか。

私自身、救急法講習会で行った災害現場を想定した総合実技の中ですら、混乱してしまい、学んだことをうまく活用できませんでした。スーパーボランティアの尾畠春夫さんのようには動けませんでした。自然災害だけでなく、私たちの登下校時に発生するかもしれない交通事故の現場などにおいても、人の痛みや苦しみを少しでも緩和できるよう、想像力を働かせ、自分なりの考えを持ち、自分から行動するためには、日頃からそのような場面を想定した行動を積み重ねていく必要があると思いました。ただし、いざというときには、多くの仲間とともに協力して活動を行っていかなければならないとも思います。

紀南高校では「防災ノート」を配付していただきました。私は、このようなツールの活用をはじめ、救急法や災害ボランティアといった活動の普及を図りたいと考えています。いざというときの共助の観点から、県内の多くの中高生が、ともに協力して適切に活動できるよう、今後、県内の中学校、高校において、災害時やその後の復旧、復興における共助の意識向上や活動の普及は、どのように図っていくのでしょうか。お教えいただきたいと思います。

○教育警察常任委員長（木津直樹）

最後の質問となりました。

まず紀南高等学校ＪＲＣ部の皆様にはこの度の西日本豪雨災害の募金活動を行っていただきまして、心から敬意を表したいと思います。今回はそのＪＲＣ部における実際の活動体験をもとに「共助意識」に関する課題を認識され、ご質問をいただきました。

さて、議員の皆様のご指摘もありましたように、三重県では近い将来南海トラフ地震の発生が危惧されており、本年２月には政府地震調査委員会により今後30年以内の南海トラフ地震発生率は以前「70％程度」であったものが「70％から80％程度」に引き上げられました。

また、６月の大阪北部地震、７月の西日本での豪雨による大規模災害などのように、甚大な被害をもたらす災害の頻度が高まっていることもあり、学校における防災教育と防災対策の充実が喫緊の課題となっています。

三重県では、防災学習を通じて、子どもたちが地震や津波、風水害などの自然災害に対して、自分の命は自分で守る力を身につけることを目指しています。さらに、県内の中高生が、大規模災害時に自らの命を守り抜くとともに、支援者となる視点で安全で安心な社会づくりに貢献できる知識や能力を習得し、地域で自ら行動できる防災人材となることを期待しております。

このような、地域で自ら行動できる防災人材育成の観点から、暁高校の皆さんの質問に対して、所管の委員長からの答弁にもありましたが、平成28年度より

「学校防災ボランティア事業」を実施しております。本年度は８月６日から８月９日までの３泊４日で実施し、国公私立の中学生12名、高校生25名の計37名が参加をされました。参加された中高生の皆様には、活動を通じて感じたこと、学んだことをそれぞれの学校や地域で発表していただき、同世代の仲間が自分の言葉で伝えることで、中高生の防災意識向上の一翼を担って頂いております。

また、自然災害から児童生徒の命を守るため、平成24年２月から県内の小・中・高・特別支援学校に、年齢に応じた防災教育の教材として「防災ノート」を配布し、学習に活用していただいております。具体的には、「災害時のボランティア活動」や「避難所で自分ができること」、「地域の防災活動への参加」などを取り上げています。ボランティア活動に参加する際に、どのようなことに気をつけたらよいか、避難所に来られた高齢者や障がい者等の援助が必要な方にどのような配慮をしたらよいか、さらに地域で実施されている防災活動を知り、どのような行動すればよいかなど、皆さんが自ら考えていただけるような内容となっております。

これからの学習を踏まえて、中高生の皆さんが行動を起こし、自分の地域の防災活動に参加することで、地域の「共助」の意識向上につながるものと思います。

例えば、南伊勢高校では南伊勢町防災訓練に参加し、避難所まで避難したり、炊き出し訓練を行うなど、地域の自治会長さんや住民の方々と行動をともにするなかで、高校生としての関わりを考える機会としています。

また、水産高校では、災害時の非常食として役立ててもらおうと、マグロのサバイバル缶詰、通称「サバＣＡＮ」を製造し、志摩市防災訓練や自治会へ配布しています。日頃から地域との関係をつくることで、災害時において地域の一員として役割を果たすことができると思います。

「共助」の意識を向上させるためには、家庭での防災意識の向上が大切です。近い将来に起こりうる災害に備えて、「学校防災ボランティア事業」や「防災ノート」などの県の取組を活用いただき、学習したことを家に持ち帰って、家庭での防災対策について話し合っていただきたいと思います。そして、地域の防災活動に積極的に参加をしていただき、皆さんが行動を起こすことで、地域の防災対策、いわゆる「共助」の向上につながると思います。

また、当委員会といたしましても、皆さんからいただいた思いを県当局に伝えるとともに、共助意識の向上や活動の普及に向けた取組が定着し、実効性のあるものになるよう、今後も委員会としてしっかりと議論を深めていきたいと思います。以上でございます。

○紀南高等学校

ご答弁ありがとうございました。

今後の活動も県内の中高生と協力できるよう、自分たちでも何かできるように考えて行動していこうと思います。以上で質問を終わります。（拍手）

○議長（田中碧美）

以上で本日の会議は終了いたしました。これをもって「みえ高校生県議会」を閉会いたします。（拍手）

○三重県議会副議長（前野和美）

高校生議員の皆さん、大変お疲れ様でございました。ここで井戸畑環境生活部長より本日の感想をいただきます。

環境生活部長の感想

○環境生活部長（井戸畑真之）

高校生議員の皆さん、長時間にわたり大変お疲れ様でした。

本日、公立、私立高校合わせて11校40名の方に参加をいただいております。参加していただいたきっかけ、あるいは目的はそれぞれ異なるかもしれませんけれども、実際にこうした議員活動を体験していただいたことで、各校が今回取り組まれたテーマはもとより、三重県が取り組む様々な施策に対し、関心を高めていただけたのではないかと思っております。

本日は人口減少であったり、学校教育、防災、環境、あるいは高齢者の人権など、非常に幅広いテーマを取り上げていただきましたが、いずれの高校も日頃の授業や、あるいはボランティア活動、あるいは高校所在の地域で起こっている様々な課題、そういった中から、気づきを得て課題解決に向けた県の取組に対するご質問、あるいはご提案をいただけたと思っております。質問や提案をいただくに当たっては、その根拠となるデータを収集、分析され、さらに既存のデータだけではなく、いろんなアンケート、あるいはインタビューなど独自の調査を行うことで、課題に対する理解を深められ調査結果を考察され、課題解決に向けた方策を一生懸命導き出そうとされたことが伝わってまいりました。

三重県の現状をデータ、あるいは調査結果に基づき客観的に捉え、そして、三重県の未来を見据えて従来の発想や、前例にとらわれない自由な発想で創意工夫に満ちた取組を提案いただけたと思っております。知事が冒頭の挨拶で申し上げました通り、皆さんからいただきましたご意見につきましては、今後の県政に少しでも生かしていきたいというふうに考えております。

今回皆さん取り組まれましたことにつきましては、行政においても、あるいは民間においても課題に対する施策を立案する上で非常に重要な手法でございます。皆さんが社会人になった際に、必ず役立つものではないかと思っております。今回の経験を生かし、様々な分野で活躍されることを期待しております。

最後になりますけれども、この今回の「みえ高校生県議会」への参加を契機に三重県、あるいは県政に関心を高めていただき、そして三重の将来につきまして、今後も一緒に考えていっていただければ幸いかと思っております。本日は本当にお疲れ様でございました。

○三重県議会副議長（前野和美）

はい、ありがとうございました。次に教育長代理の森脇教育委員より感想をいただきます。

教育長（代理）の感想

○教育長代理（森脇健夫）

教育長代理の森脇でございます。県の教育委員をしております。緊張されたと思いましたけどいかがでしたか。高校生議員の皆さん、大変お疲れ様でした。３点ほど、感想を述べさせていただきたいと思います。

まず第一に、皆さんの堂々とした質問態度、よく準備された論旨の明確な質問

内容に感銘を受けました。若い皆さんの探求力、そしてプレゼンテーション能力の高さを改めて感じ取ることができました。ありがとうございました。

第二に、質問内容なんですけども、とても柔らかい感性、それから現状の正確な把握と問題状況の整理と考察、そして具体方策の立案と提言、そういうふうになっていたと思います。また、何よりもその背後に、これからの三重県の地域、学校を良くしたいという、そういう強い願いを感じました。

第三に、全体としては今、指摘したように非常に素晴らしかったというふうに思います。あえて言えばということで、議論には真剣勝負のところがありますので、特に今回はちょっと難しかったかもしれないんですけども、答弁に対する再質問のときにですね、「ここは明確になった」「理解できた」でも「これはどうですか」「この点はどうですか」というふうな質問ができたら、これは今回は難しかったかもしれませんけれども、より議論が深まるのではないかというふうに思います。

いずれにしても、皆さんのような力が、若い力が育っていく、そういうことによって、この三重県の未来を託することができる。そういうふうな心強さを感じました。ありがとうございました。

副議長あいさつ

○三重県議会副議長（前野和美）

ありがとうございました。それでは最後に私の方から、閉会のご挨拶を申し上げたいと思います。

高校生の皆さんにおかれましては本当にお疲れ様でございました。皆さんが質問内容を作成するに当たりまして、広聴広報会議の議員の皆さん方が学校を訪問していただきまして、助言をさせていただきました。

今年、新たな取組といたしまして、「みえ高校生県議会 事前交流会」を開催いたしまして、議員の助言等によりまして、ブラッシュアップするなど、議会としても皆さんと一緒に関わってまいりました。これらの機会でアドバイスに真摯に耳を傾けられ、さらに時間をかけて調査をしたり、アンケートを行い、分析をしたりと苦労したことが今日の質問で十分理解ができました。また質問内容がしっかり整理をされておりまして、大変関心をさせていただいたところであります。学校での勉強や日頃の生活などを通じて、感じられたことを高校生である皆さんの視点で考え、まとめられた内容は、常任委員長が答弁するには大変難しいものでありましたが、いずれも貴重なご意見をいただいたものと思っております。

今後は議会としても高校生の皆さんのような若い視点も取り入れながら、議会での議論をさらに充実をさせていきたいと考えております。また、高校生議員の皆様には、今回の経験を通じて、県政や県議会に対する関心をより一層高めていただければと思っております。

最後になりましたが、本日の開催に当たりまして、まずは参加いただいた高校生議員の皆さん、そして大変お忙しい中ご尽力を賜りました各学校の先生方をはじめ、関係者の皆さん、そして傍聴に来ていただきました皆さん、本日は誠にありがとうございました。

これをもちまして「みえ高校生県議会」を終了させていただきます。ありがとうございます。（拍手）

〔午後３時50分閉会〕

参　考　資　料

高校生議員によるパネル資料

桑名北高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53（A-1～3）

津田学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54～56（B-1～11）

四日市南高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57～58（C-1～5）

暁高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58～59（D-1～5）

津高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60～61（E-1～5）

津西高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61～62（F-1～3）

セントヨゼフ女子学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・62（G-1～2）

久居農林高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63（H-1）

名張高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63（I-1～2）

紀南高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64（J-1～4）

アンケート結果

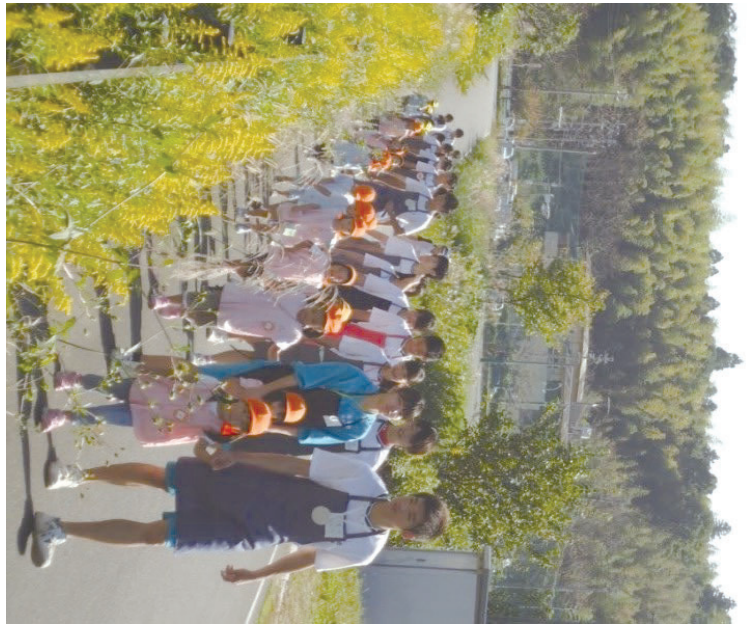
Ⅰ　6月23日 みえ高校生県議会　事前交流会
【参加者（参加高校生・引率教員）アンケート結果】・・・・・・・・・・65

Ⅱ　8月21日 みえ高校生県議会
【参加者（参加高校生・引率教員）アンケート結果】・・・・・・・・・・66

【傍聴者アンケート結果】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

A-1

A-2



A-3

三重県南部に関するアンケート調査

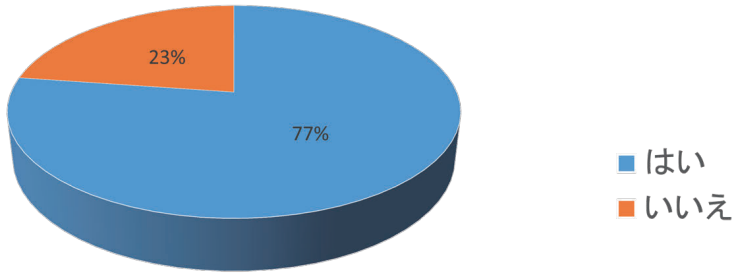
三年制（651名）・六年制（70名）

（平成30年度7月6日実施）

津田学園高等学校

B-1

質問事項 1．三重県の南部には行ったことはありますか。



はい	いいえ
565名	166名

B-2

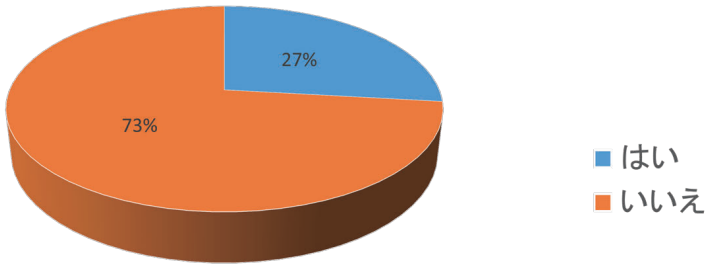
質問事項 2．1で「はい」と答えた人は、どこに行ったことがありますか。

- 伊勢市（伊勢神宮）
- 志摩市（志摩スペイン村）
- 熊野市（熊野古道）
- 鳥羽市（鳥羽水族館）
- 尾鷲市
- 大台町
- 玉城町
- 紀北町

など

B-3

質問事項 3．三重県南部で行ってみたいところはありますか。



はい	いいえ
191名	521名

B-4

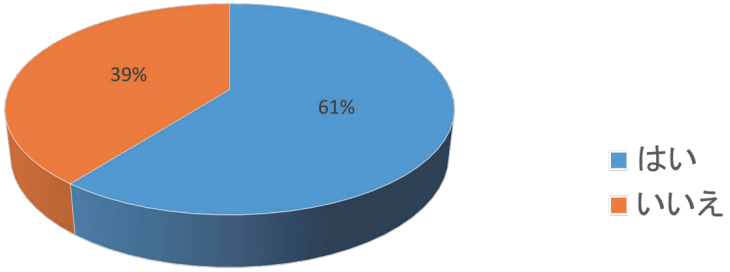
質問事項４．３で「はい」と答えた人は、どこに行ってみたいと思いますか。

- 伊勢市（伊勢神宮）
- 志摩市（志摩スペイン村）
- 熊野市（熊野古道）
- 大台町
- 玉城町

など

B-5

質問事項５．三重県南部について魅力的だと感じますか。



はい	いいえ
445名	290名

B-6

質問事項６．５で「はい」と答えた人は、どのような点が魅力的だと感じますか。

- 自然が豊か
- サミットが開催された
- 世界遺産に登録された場所がある
- 観光地（伊勢神宮や熊野古道）がある

など

B-7

質問事項７．５で「いいえ」と答えた人は、その理由を簡単に書いてください。

- 遠い
- 利便性が悪い
- 田舎のイメージがある
- 若者向けの場所がない
- 何度も行きたいと思うところがない
- 何があるかわからない、興味がない

など

B-8

質問事項８．三重県南部に人を引き付けるためには、

どんな対策を取るべきか、アイデアを教えてください。

• イベントをたくさん開催する
（例）音楽フェス、ゆるキャラグランプリ、オリンピック　など

• 若者向けの場所をたくさんつくる
（例）インスタ映えするスポット　など

• 自然を守りながら開発・都市化を進める、津波対策を行う

• 宣伝・広報活動を全国に向けてもっと行う
（例）CM、ポスター、面白いPR動画、SNSで発信　など

B-9

質問事項８．三重県南部に人を引き付けるためには、

どんな対策を取るべきか、アイデアを教えてください。

• 交通の便をよくする
（例）電車・バスなどの公共交通機関、高速道路　など

• 三重県南部にしかないものをたくさんアピールする
（例）食べ物や真珠などの特産品、自然、田舎での生活の良さ　など

• 学校行事だけでなく、南部へ人に来てもらうようにする
（例）企業や公務員の研修や旅行の誘致　など

B-10

質問事項８．三重県南部に人を引き付けるためには、

どんな対策を取るべきか、アイデアを教えてください。

• 遊べる場所や観光場所をもっとつくる
（例）テーマパーク、アミューズメントパーク、水上パーク　など

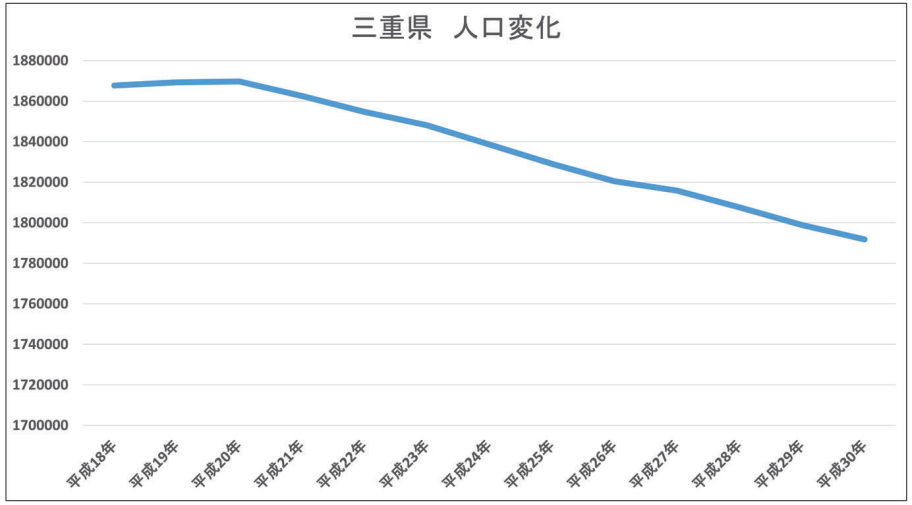
• 有名人を観光大使にする

• ふるさと納税の宣伝をする

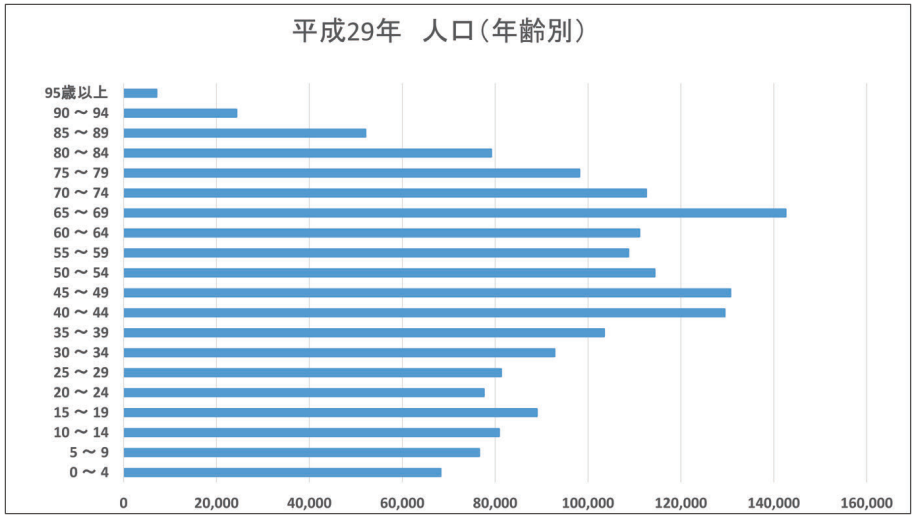
• 三重県南部からアーティストや有名人を生む

• 東海総体の会場で、その地域の特産物を使った料理を提供する

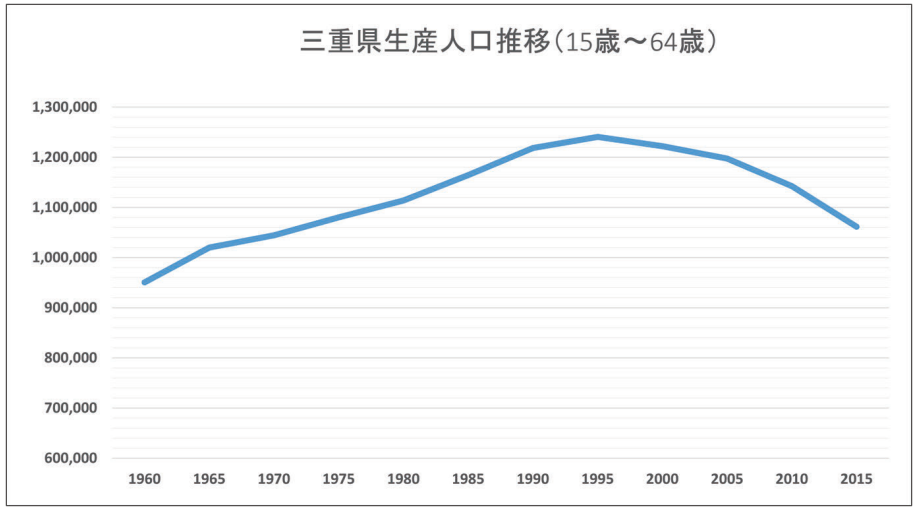
B-11


三重県　人口変化
1880000
1860000
1840000
1820000
1800000
1780000
1760000
1740000
1720000
1700000
平成18年
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年
平成28年
平成29年
平成30年

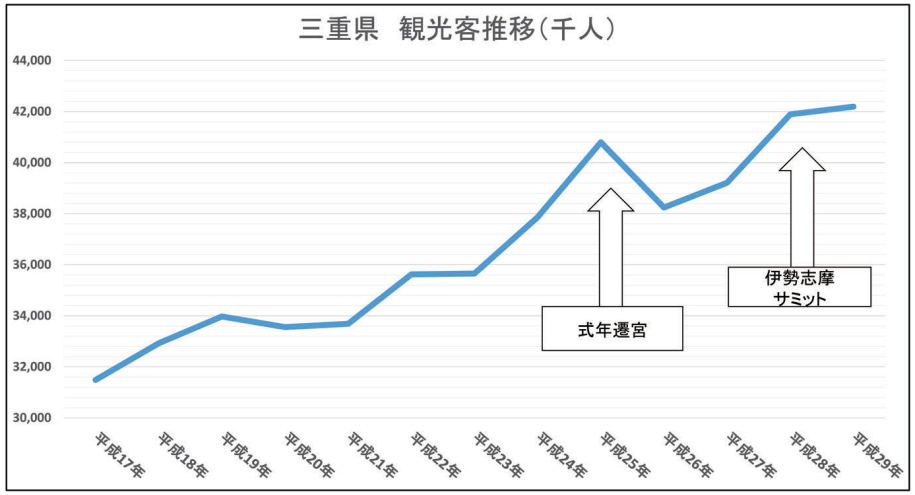
C-1


平成29年　人口（年齢別）
95歳以上
90 ～ 94
85 ～ 89
80 ～ 84
75 ～ 79
70 ～ 74
65 ～ 69
60 ～ 64
55 ～ 59
50 ～ 54
45 ～ 49
40 ～ 44
35 ～ 39
30 ～ 34
25 ～ 29
20 ～ 24
15 ～ 19
10 ～ 14
5 ～ 9
0 ～ 4
0
20,000
40,000
60,000
80,000
100,000
120,000
140,000
160,000

C-2


三重県生産人口推移（15歳～64歳）
1,300,000
1,200,000
1,100,000
1,000,000
900,000
800,000
700,000
600,000
1960
1965
1970
1975
1980
1985
1990
1995
2000
2005
2010
2015

C-3


三重県　観光客推移（千人）
44,000
42,000
40,000
38,000
36,000
34,000
32,000
30,000
式年遷宮
伊勢志摩
サミット
平成17年
平成18年
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年
平成28年
平成29年

C-4

三重県雇用経済部
中小企業・サービス産業振興課

http://www.shoku.pref.mie.lg.jp/jp/index.html より

C-5

1，防災グッズあるいは備蓄品(懐中電灯や水、乾パンなど)が自宅にありますか？

A 準備しており、場所も把握している
38%

B 親が用意しているが、詳しく把握していない
43%

C 備蓄していない
5%

D 全くわからない(興味がない)
14%

2，自宅で家具などを固定していますか？

A ほとんどの家具を固定している
33%

B 一部の家具を固定している
45%

C 家具を固定していない
19%

D わからない
3%

D-1

3，大地震が起きた際の対処(家族で集まる場所など)について、家族で話し合っていますか？

A 話し合っており、対処法を認識している
13%

B 話し合っているが、対処法があいまいである
38%

C あまり話したことはない
29%

D 全く話題になったことはない
20%

4，学校で地震が起きた際の体育館(グラウンド)までの避難経路を理解できていますか？

A よく理解できている
23%

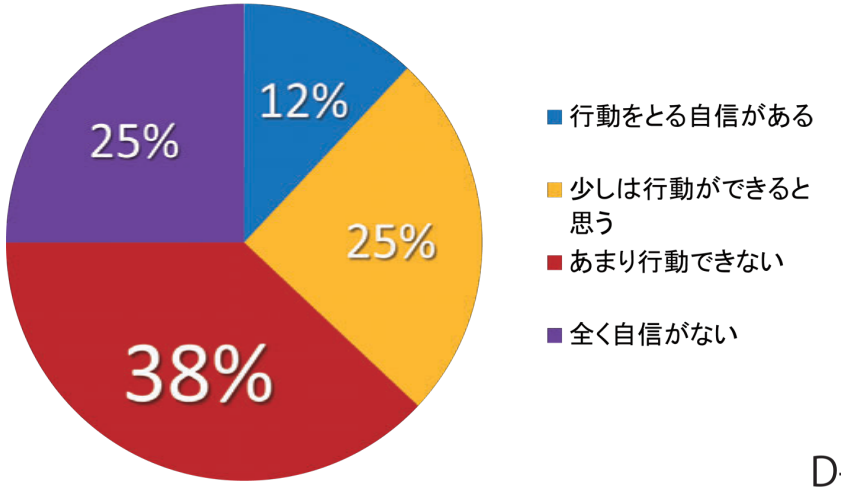
B おおまかではあるが、理解できている
61%

C あまり理解できていない
13%

D 全くわからない
3%

D-2

災害時に具体的な行動をとる自信がありますか？



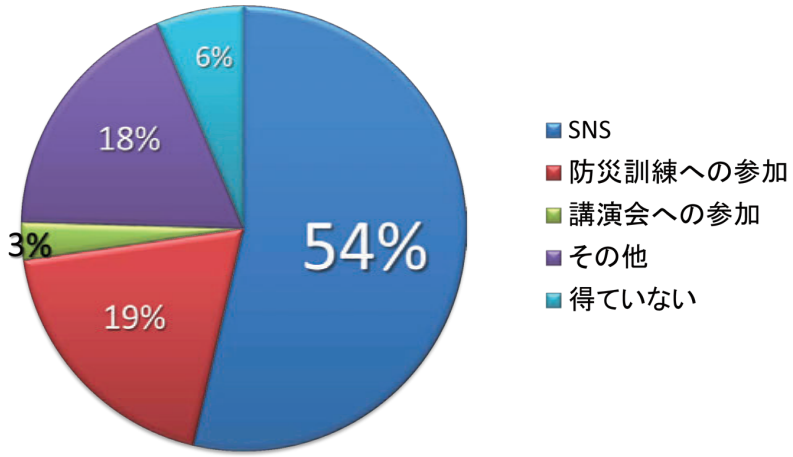
D-3

地域の防災訓練に参加したことがありますか？

はい	いいえ
37%	63%

D-4

防災に関する情報を何により得ていますか？



D-5

パネル①

JETプログラムとは

- JETプログラムは、「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称で、地方自治体が総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下に実施しています。
- JETプログラムは主に海外の青年を招致し、地方自治体、教育委員会及び全国の小・中学校や高等学校で、国際交流の業務と外国語教育に携わることにより、地域レベルでの草の根の国際化を推進することを目的としています。国内はもとより、世界各国から大規模な国際的人的交流として高く評価されており、このプログラムに係わる日本の各地域の人々と参加者が国際的なネットワークをつくり、国際社会において豊かな成果を実らせることが期待されています。

http://jetprogramme.org/ja/about-jet/より

E-1

パネル②

ALT（外国語指導助手）とは

外国語指導助手（ALT：Assistant Language Teacher）は主に学校、または教育委員会に配属されます。日本人外国語担当教員の助手として外国語授業に携わり、教育教材の準備や英語研究会のような課外活動などに従事します。JET参加者の90%以上がALTです。

CIR（国際交流員）とは

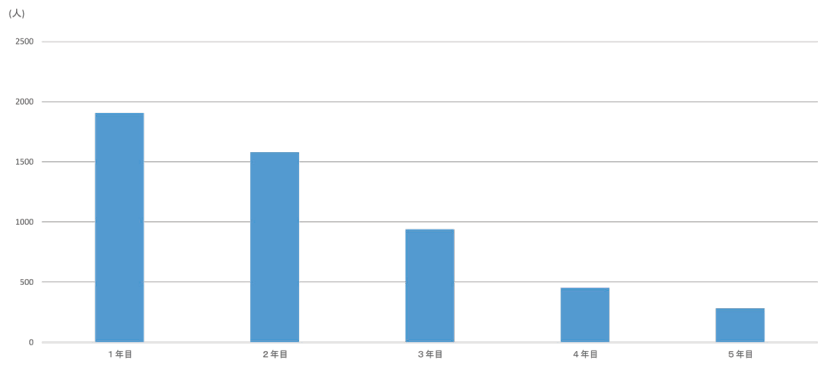
国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations)は、主に地方公共団体の国際交流担当部局等に配属され、国際交流活動に従事します。その職務内容から、応募者には高い日本語能力が求められます。

http://jetprogramme.org/ja/positions/より

E-2

パネル③

JETプログラム参加者の参加年数と人数



http://jetprogramme.org/ja/countries/より

E-3

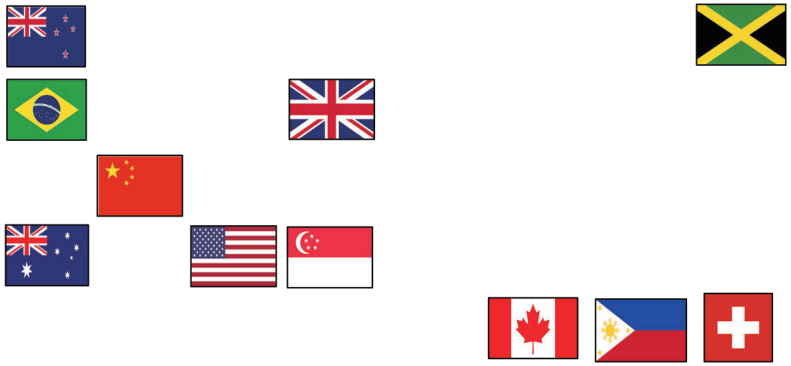
パネル④

日本に来ているALTの出身国44ヶ国

http://jetprogramme.org/ja/countries/より

E-4

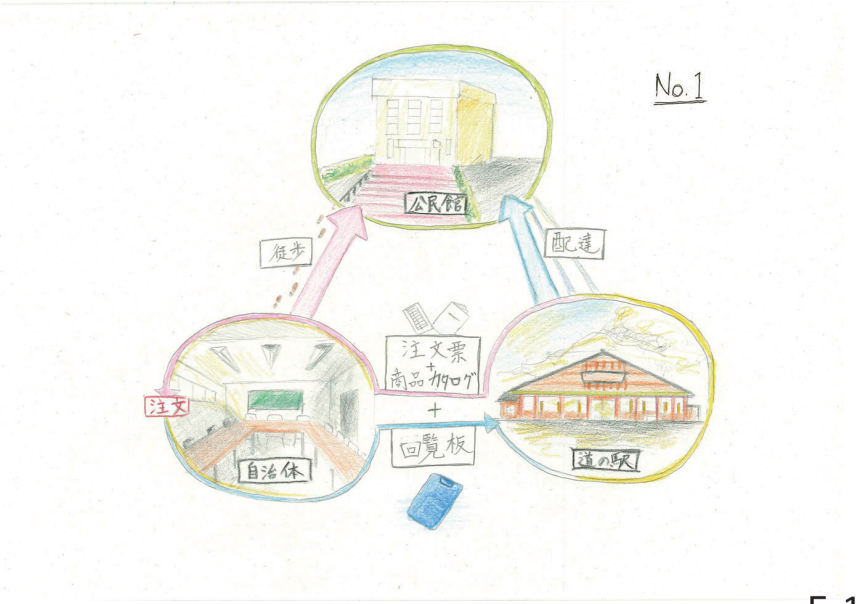
パネル⑤



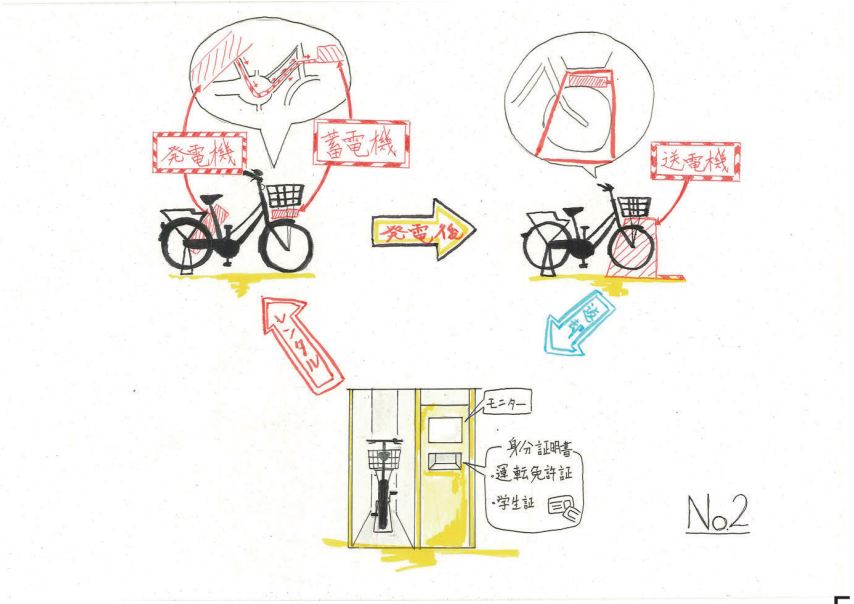
三重県に来ているALTの出身国11ヶ国

独自調べ

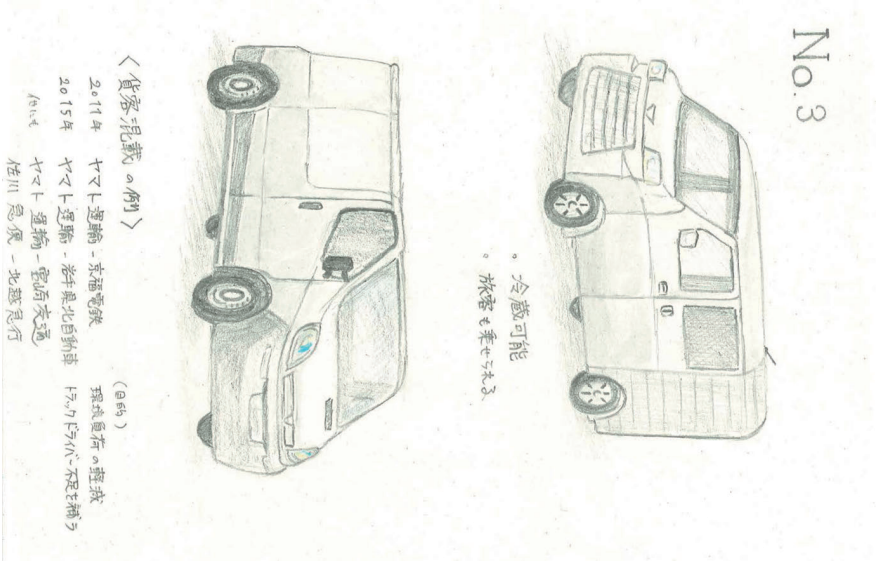
E-5



F-1

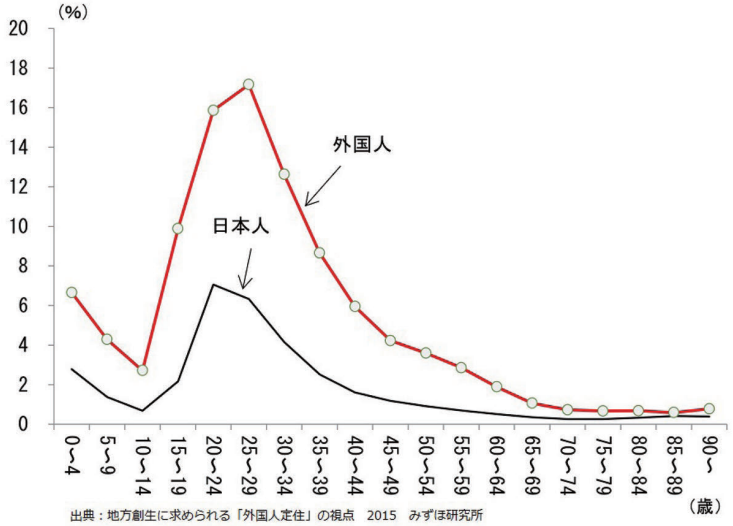


F-2



F-3

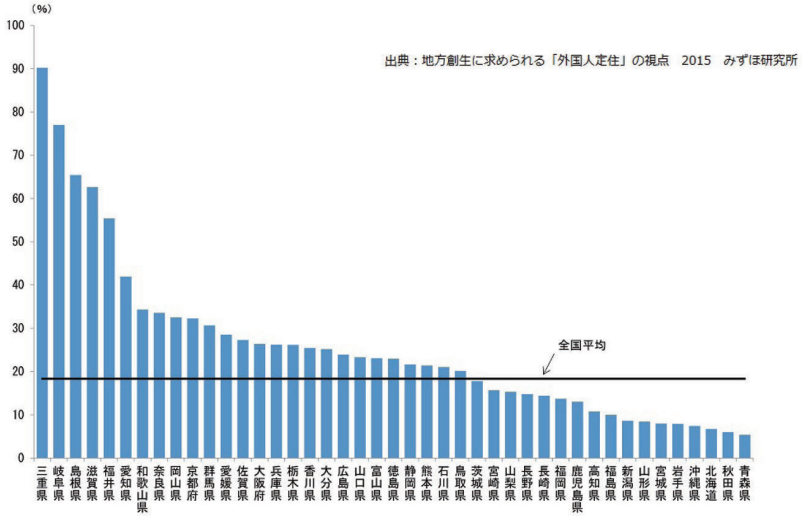
図１　人口全体に対する都道府県間移動者の割合



出典：地方創生に求められる「外国人定住」の視点　2015　みずほ研究所

G-1

図２　日本人の東京圏への転出者数に対する外国人の都道府県間転入者の比率



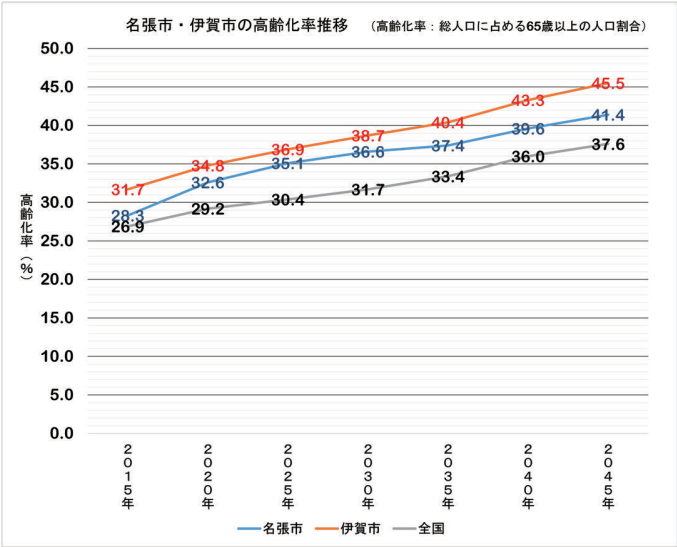
G-2

表-2. 都道府県別の施設数

都道府県名	施設数	都道府県名	施設数	都道府県名	施設数	都道府県名	施設数
北海道	66	東京都	33	滋賀県	20	香川県	11
青森県	27	神奈川県	35	京都府	23	愛媛県	10
岩手県	29	新潟県	27	大阪府	24	高知県	7
宮城県	14	富山県	17	兵庫県	53	福岡県	19
秋田県	17	石川県	22	奈良県	9	佐賀県	7
山形県	17	福井県	16	和歌山県	10	長崎県	17
福島県	30	山梨県	28	鳥取県	8	熊本県	32
茨城県	15	長野県	36	島根県	9	大分県	9
栃木県	31	岐阜県	39	岡山県	24	宮崎県	9
群馬県	16	静岡県	20	広島県	14	鹿児島県	18
埼玉県	20	愛知県	26	山口県	9	沖縄県	16
千葉県	26	三重県	18	徳島県	9	計	992

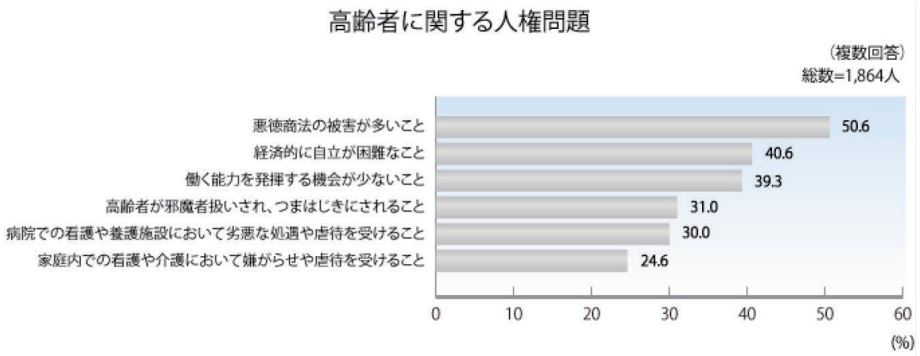
出典：日本林学会誌2014年96号「森林環境教育の歩みと実践研究」
「全国における森林学習施設の設置状況」
木山加奈子・井上真理子・大石康彦・土屋俊幸

H-1



国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口・世帯数」『日本の地域別将来推計人口』（平成 30(2018)年推計）、『日本の将来推計人口』（平成 29 年推計）より作成

I-1



引用「政府公報オンライン」

I-2

J-1

J-2

J-3

J-4

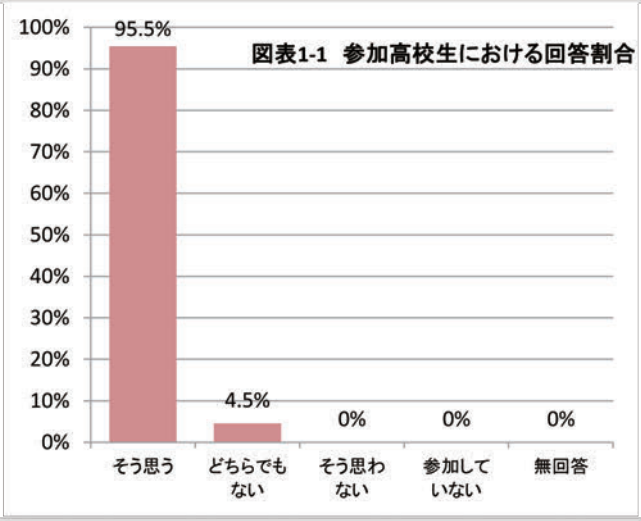
アンケート結果

Ⅰ　6月23日　みえ高校生県議会　事前交流会

【参加者（参加高校生・引率教員）アンケート結果】　（回答数：参加高校生22、引率教員4）

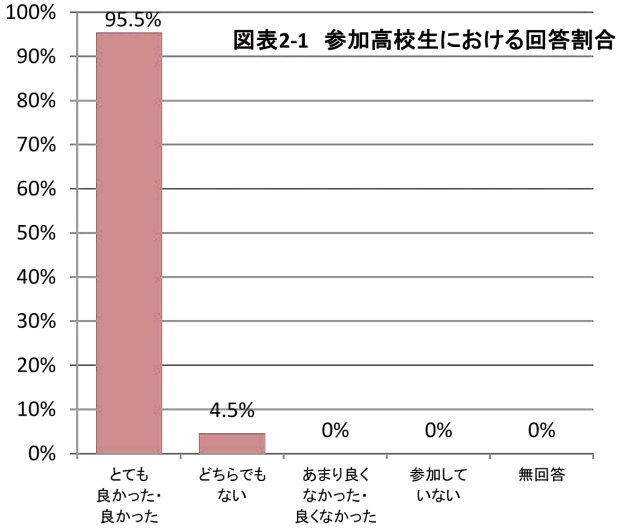
問1　今後も事前交流会を開催した方が良いと思うか

回答項目	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
そう思う	21	95.5%	3	75%
どちらでもない	1	4.5%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%
参加していない	0	0%	1	25%
無回答	0	0%	0	0%
合計	22	100%	4	100%



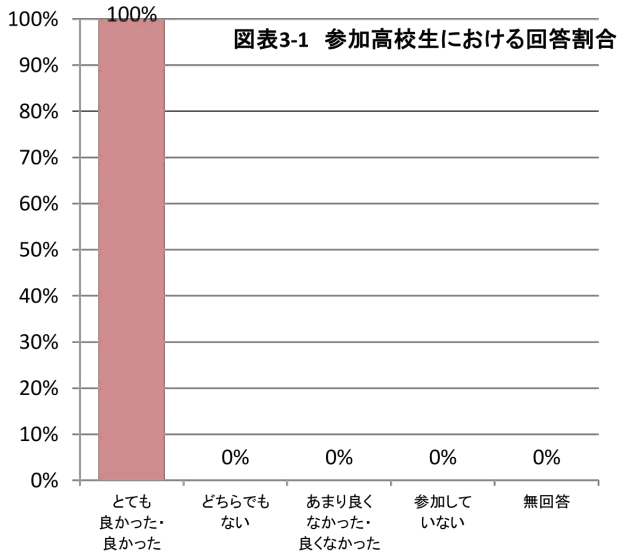
問2　議員の助言について

回答項目	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	11	50%	1	25%
良かった	10	45.5%	2	50%
どちらでもない	1	4.5%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
参加していない	0	0%	1	25%
無回答	0	0%	0	0%
合計	22	100%	4	100%



問3　グループ別意見交換について

回答項目	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	12	54.5%	0	0%
良かった	10	45.5%	3	75%
どちらでもない	0	0%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
参加していない	0	0%	1	25%
無回答	0	0%	0	0%
合計	22	100%	4	100%



Ⅱ　8月21日　みえ高校生県議会

【参加者（参加高校生・引率教員）アンケート結果】

（回答数：参加高校生36、引率教員8）

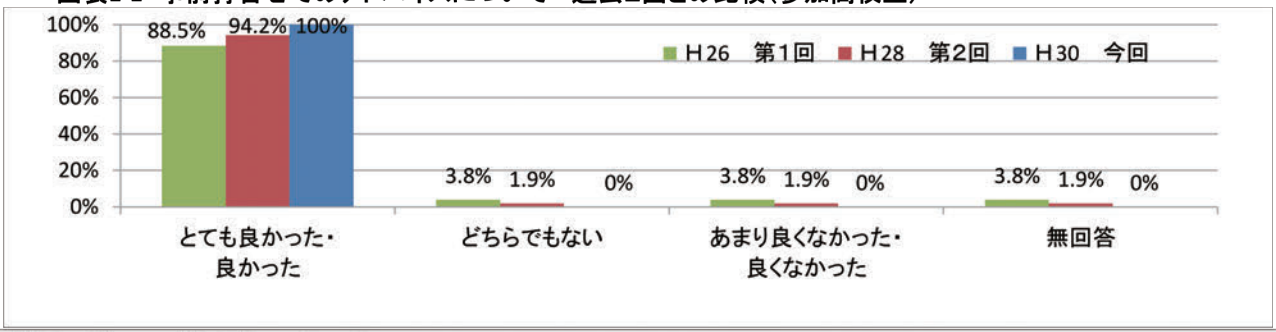
問1　事前打ち合わせでのアドバイスについて

回答項目	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	25	69.4%	3	37.5%
良かった	11	30.6%	5	62.5%
どちらでもない	0	0%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
無回答	0	0%	0	0%
合計	36	100%	8	100%

○　広聴広報会議委員が各学校へ訪問し、事前打合せを行った感想について質問したところ、すべてが「とても良かった」、もしくは「良かった」という回答であった。

○　参加生徒が「とても良かった」「良かった」と回答した割合は、過去２回と比較して、最も高い割合となっている。

図表1-1　事前打合せでのアドバイスについて　過去2回との比較（参加高校生）



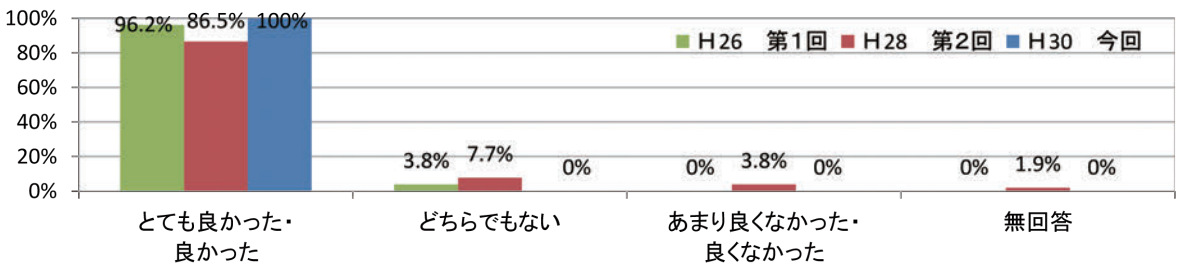
問2　リハーサルについて

回答項目	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	23	63.9%	3	37.5%
良かった	13	36.1%	5	62.5%
どちらでもない	0	0%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
無回答	0	0%	0	0%
合計	36	100%	8	100%

○　当日の開催直前に議場で行ったリハーサルの感想について質問したところ、すべてにおいて「とても良かった」、もしくは「良かった」という回答であった。

○　参加生徒が「とても良かった」「良かった」と回答した割合は、過去２回と比較して、最も高い割合となっている。

図表2-1　リハーサルについて　過去2回との比較（参加高校生）

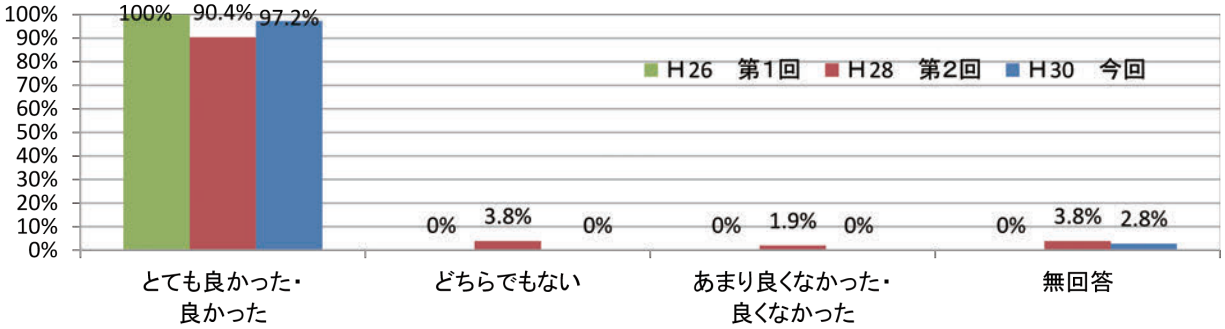


問3　議場見学について

回答	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	23	63.9%	3	37.5%
良かった	12	33.3%	1	12.5%
どちらでもない	0	0%	2	25%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
無回答	1	2.8%	2	25%
合計	36	100%	8	100%

○　開催後に行った議場見学の感想について質問したところ、参加生徒では無回答を除くすべてが「とても良かった」、もしくは「良かった」という回答であった。

図表3-1　議場見学について　過去2回との比較（参加高校生）



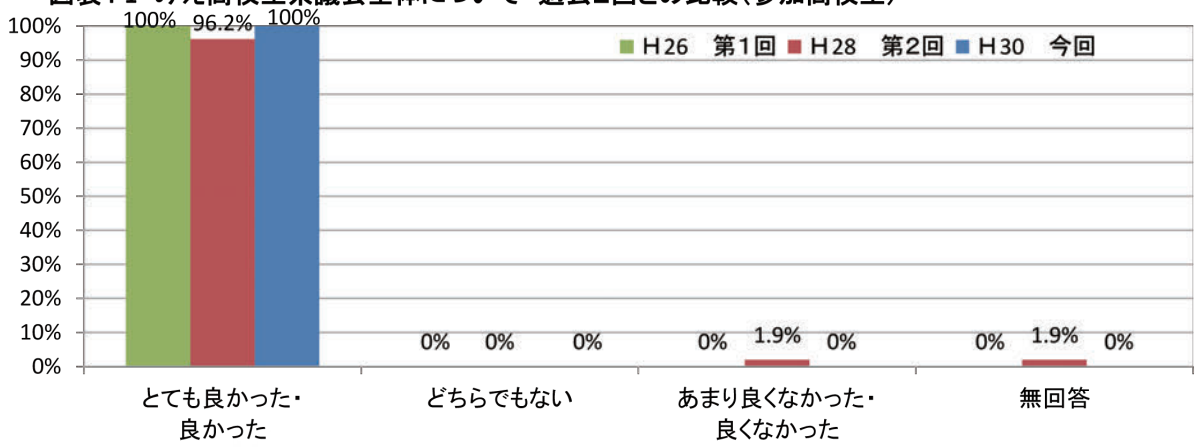
問4　みえ高校生県議会の感想について

（1）　みえ高校生県議会全体について

回答	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	29	80.6%	5	62.5%
良かった	7	19.4%	3	37.5%
どちらでもない	0	0%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
無回答	0	0%	0	0%
合計数	36	100%	8	100%

○　みえ高校生県議会の全体での感想について質問したところ、参加生徒が「とても良かった」とした割合が80.6%と他の質問項目と比べて高い値となっている。

図表4-1　みえ高校生県議会全体について　過去2回との比較（参加高校生）



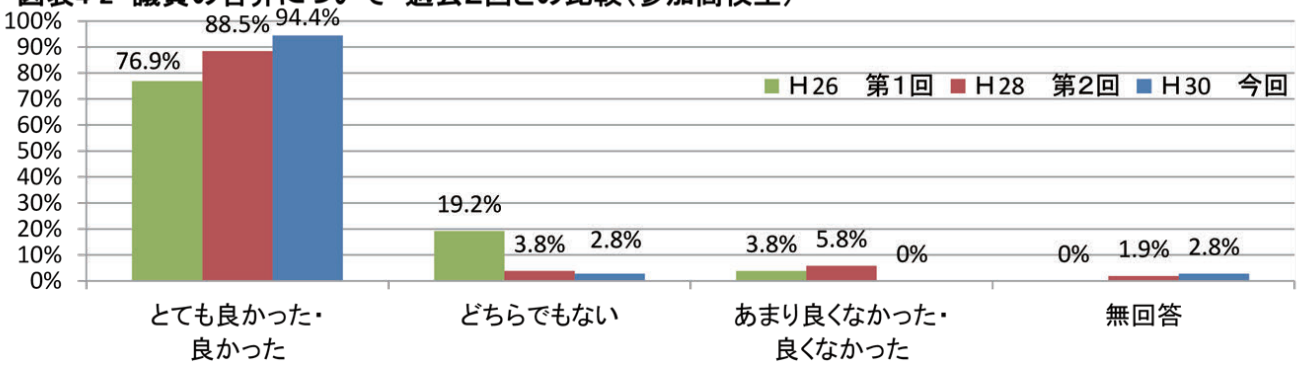
（2） 議員の答弁について

回答	参加高校生		引率教員	
	回答数	割合	回答数	割合
とても良かった	20	55.6%	4	50%
良かった	14	38.9%	4	50%
どちらでもない	1	2.8%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%
良くなかった	0	0%	0	0%
無回答	1	2.8%	0	0%
合計数	36	100%	8	100%

○　みえ高校生県議会での議員の答弁について質問したところ、参加生徒では「とても良かった」が最も高くなっているが、値が55.6%と他の質問項目と比べて低くなっている。

○　参加生徒が「とても良かった」「良かった」と回答した割合は、過去２回と比較して、最も高い割合となっている。

図表4-2　議員の答弁について　過去2回との比較（参加高校生）

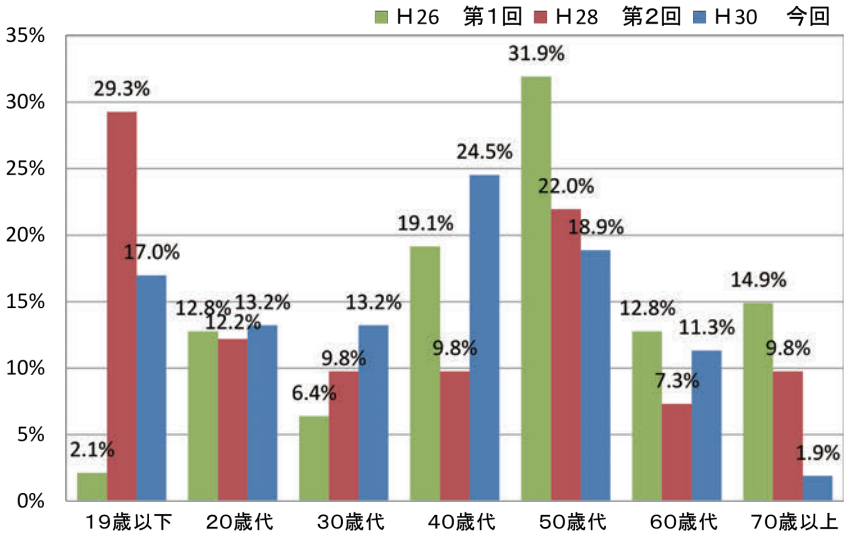


【傍聴者アンケート結果】

（回答数：53）

問1　年　齢

回答項目	回答数	割合
19歳以下	9	17.0%
20歳代	7	13.2%
30歳代	7	13.2%
40歳代	13	24.5%
50歳代	10	18.9%
60歳代	6	11.3%
70歳以上	1	1.9%
合計	53	100%

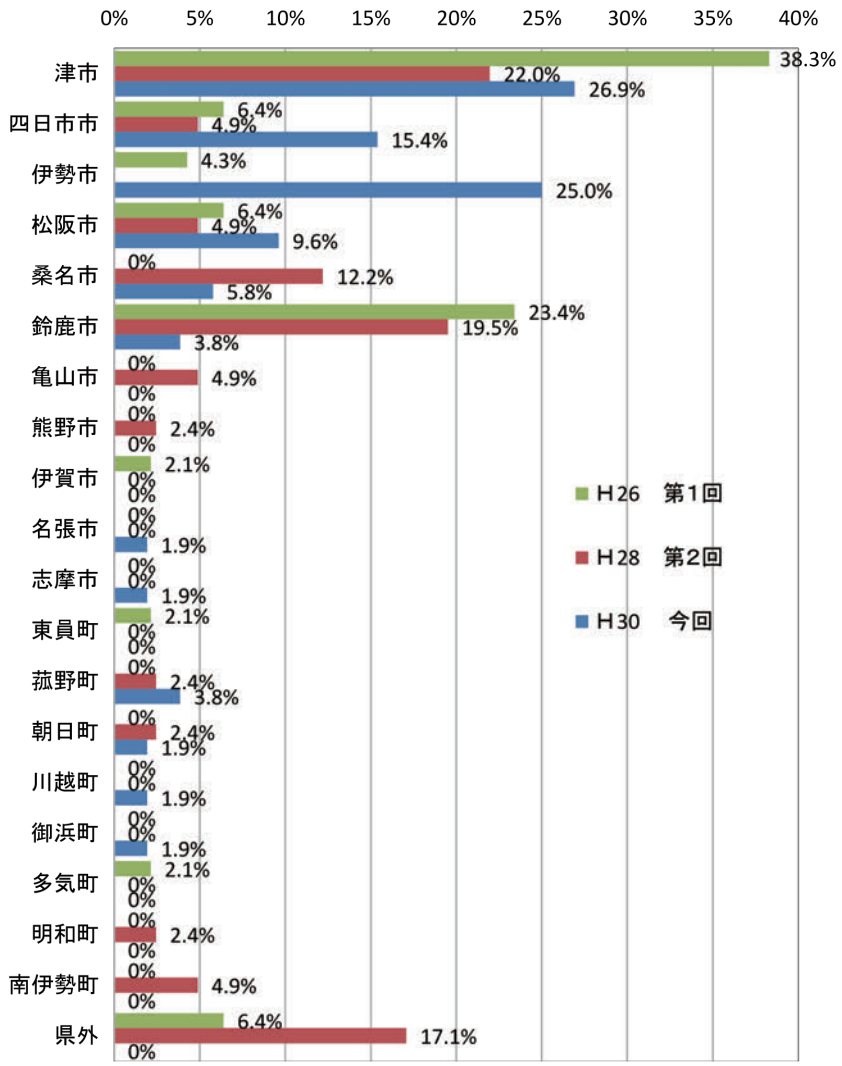


図表1-1　年齢について　過去2回との比較

問2　住　所

回答項目	回答数	割合
津市	14	26.9%
四日市市	8	15.4%
伊勢市	13	25.0%
松阪市	5	9.6%
桑名市	3	5.8%
鈴鹿市	2	3.8%
名張市	1	1.9%
志摩市	1	1.9%
菰野町	2	3.8%
朝日町	1	1.9%
川越町	1	1.9%
御浜町	1	1.9%
合計	52	100%

（無回答1）



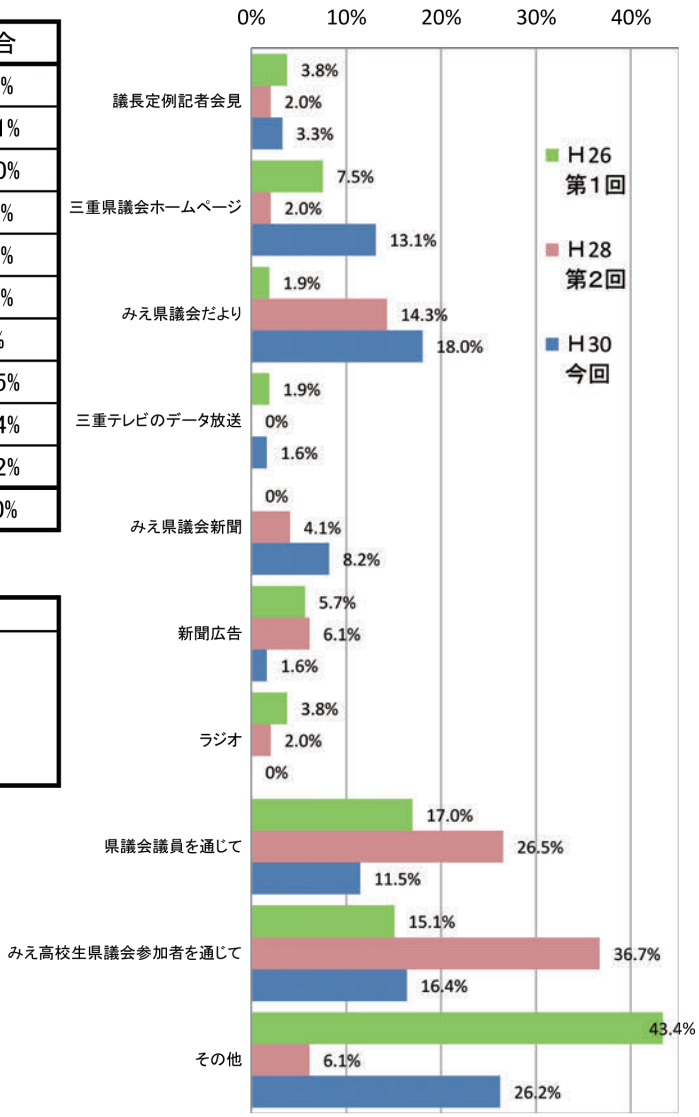
図表2-1　住所について　過去2回との比較

問3 「みえ高校生県議会」の情報入手方法について

回答項目	回答数	割合
議長定例記者会見	2	3.3%
三重県議会ホームページ	8	13.1%
みえ県議会だより	11	18.0%
三重テレビのデータ放送	1	1.6%
みえ県議会新聞	5	8.2%
新聞広告	1	1.6%
ラジオ	0	0%
県議会議員を通じて	7	11.5%
みえ高校生県議会参加者を通じて	10	16.4%
その他	16	26.2%
合計	61	100%

（複数回答あり）

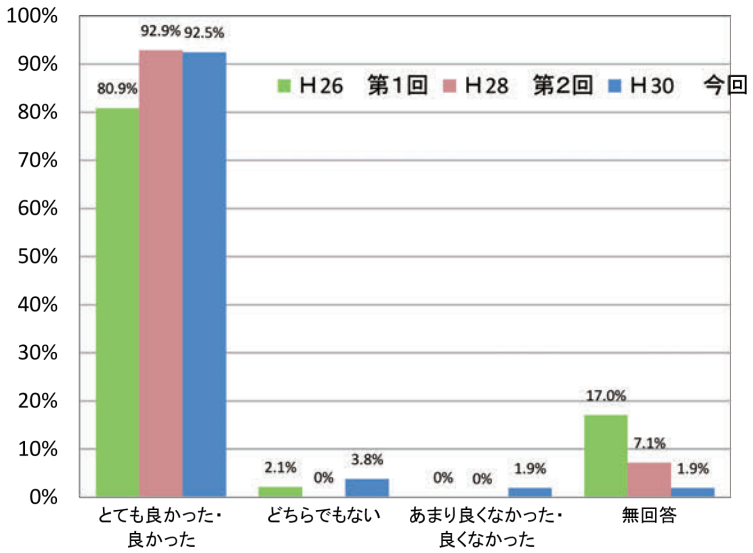
【その他の内訳】
- ・インターンシップ
- ・市の議会事務局
- ・大学の活動から
- ・大学のCLL活動を通じて
- ・市議会議員を通して
- ・政治スクールみえ
- ・高校への案内
- ・「．Jp」のインターン
- ・政治セミナー



図表3-1 情報入手方法について 過去2回との比較

問4 「みえ高校生県議会」の感想について

回答項目	回答数	割合
とても良かった	29	54.7%
良かった	20	37.7%
どちらでもない	2	3.8%
あまり良くなかった	1	1.9%
良くなかった	0	0%
無回答	1	1.9%
合計	53	100%



図表4-1 感想について 過去2回との比較

平成３０年度 みえ高校生県議会 記録集

平成３１年（２０１９年）１月
発行　三重県議会

編集　三重県議会企画法務課
〒514-8570　三重県津市広明町 13
ＴＥＬ：059-224-2877
ＦＡＸ：059-229-1931
E-mail：gikaik@pref.mie.jp
三重県議会ホームページ：http://www.pref.mie.lg.jp/KENGIKAI/